

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
ゲームプログラミングⅡ（後期）		演習	60	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	2	必修	ITE2		

1. 科目の概要および目的

「ゲームプログラミングⅠ」で学んだゲーム作りの基礎知識に加えて、モデリングツールとの連携や外部コンテンツの取り込みなど更なるゲーム作りのノウハウを学びます。既存ゲームを改造したオリジナルゲームの作成。またゲームを企画段階から考えるゲームデザインを学習。ワークとして各グループ単位で企画発表会を実施。その他、ゲーム業界における就活アドバイスを経てポートフォリオの準備。及び卒業制作においてオリジナルゲーム作りに取り組める力を身に付けることを目的とします。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

既存ゲームのカスタマイズ・アレンジ技術
FBXを介した他コンテンツ制作ツールとの連携技術。
(3Dモデル、ボーン、アニメーション情報の取り込みなど)
ゲームの企画、プレゼンテーション技術の習得。
その他、アセットを利用した短期間開発のノウハウ。
ポートフォリオの制作技術と実績。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	今までに学習した内容を活かして、ポートフォリオの作成、および卒業制作の作品を制作。	・しっかり企画から検討して作業に入る ・週に一回は進捗確認を行い状況確認すること	
2	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） プロジェクト結成・作品企画検討1	・プロジェクトメンバーの検討	
3	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 作品企画検討2、開発手法検討	・開発期間を考慮して内容を考える	
4	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 仕様検討・設計1	・仕様と基本設計は必ずここで決めること	
5	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 設計2	・仕様と基本設計は必ずここで決めること	
6	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発（コーディング）開始	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
7	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
8	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
9	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
10	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
11	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
12	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発・試験フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
13	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発・試験フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
14	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発・試験フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
15	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発・試験フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
16	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作） 開発・試験フェーズ	・必ず週一回は進捗会議を行うこと	
17	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	デバッグやドキュメント整備などの仕上げと合わせて 作品発表に向けての準備を平行で進める	・必ず週一回は進捗会議を行うこと ・メンバーの役割分担を確認する	
18	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	本番発表を想定したりハーサル	・必ず週一回は進捗会議を行うこと ・他のチームの発表も参考にすること	
19	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	デバッグやドキュメント整備などの仕上げと合わせて 作品発表に向けての準備を平行で進める	・提出物を再度確認すること	
20	ポートフォリオ作成 (卒業制作実習)	ポートフォリオ（卒業制作）作品発表	・必ず最後にドキュメント整備	

4. 教科書・参考文献

教科書		参考文献	ヒノタマ様提供の映像学習素材・適宜関連資料
-----	--	------	-----------------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨んでください。
 復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身につけたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出された課題等について論評・添削しますので課題等忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

授業態度:20%(アンケートなどによる参加・発言等、主体的学習態度)、習熟度:20%(確認テストなど)、課題提出(実習作品、ポートフォリオ):60%
 主体的に学習することを心掛けてください。(授業時間外で作成したポートフォリオ作品も上記に加えて加点対象とします。)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
開発上流工程		講義	32	4月～7月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	2	必修	SE2 ICTP2		

1. 科目の概要および目的

一般的なシステム開発プロジェクトでは、上流工程と下流工程という2つのプロセスに分けられます。本科目ではシステムインテグレータの役割を知ること、開発を受注してからシステムの全体像を決定する上流工程の基本的なスキルを学びます。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

システム開発全般を通しての工程と内容。
開発モデルとプランニング技術。
要件定義書の作成方法と知識。
基本設計フェーズに必要なスキル。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	上流工程とは	初めての上流工程の紹介。システム開発においてどのような役割を担っているか理解する。	・情報系資格試験で学んだ上流工程を復習する ・以前に学んだ知識に加えて復習する	
2	情報システムとは	システム化企画の重要性を学習	・情報システムの概要を調べておく ・システム化の重要性について理解する	
3	BPRと情報システム化	情報システムとBPRの関連性について学習	・情報系資格試験で学んだBPRを復習する ・以前に学んだ知識に加えて復習する	
4	ITの知識力が力の源	上流工程には幅広い知識が必要。業務や法令の知識はもちろんのこと、ITに関する幅広いスキルが要求されることを学習。	・幅広い知識が必要であることを理解しておく	
5	新業務を理解する	企業が抱える課題をどう解決するかについて、システム化の方向性と計画を学習する。	・前例のない業務形態も増えていることも理解	
6	ご挨拶、その前に	要件定義の基本。プロジェクトの揮啓と目的の明確化。ステークスホルダの特定と関与などについて理解したうえでコンサルティング（企画）を学習。	・相手の立場を理解する必要性について考える ・業務やプロジェクトの背景を理解しておく	
7	事前準備とあいさつの勘所	上流工程がシステム全体像を決定する大きな工程。ユーザーとのコミュニケーションの重要性を理解する。	・なぜ要件定義の前準備が必要か考えてみる ・コミュニケーションの重要性を確認する	
8	設計事務所の建築士として	要件定義基本設計のワークショップ。事例を基にクライアントの課題やニーズをヒアリングし、解決策を学ぶ。	・今までの学習内容から考えてみる ・以降の経験にも活かせるように復習しておく	
9	ユーザーの期待とニーズの理解	ユーザーの要求をシステム設計の要件へと変換することが主な役割。要求を実現することがゴールであることを学習。	・「ニーズ」について事前にしらべてみる ・上流工程のゴールについて理解する	
10	ITを位置づける要件定義	システムの実現したい要求（内容、スケジュール、予算など）を明確に決定することを学習。	・情報系資格試験で学んだ要件定義を復習する ・以前に学んだ知識に加えて復習する	
11	ITを位置づける基本設計	システムの構造や機能、仕様を詳細に設計。その後の品質・有用性に大きく影響することを学ぶ。	・情報系資格試験で学んだ基本設計を復習する ・以前に学んだ知識に加えて復習する	
12	見積もり	正確なコストと工数を見積もることがプロジェクトの成功につながることを学習する。	・世間一般の「見積もり」意味を調べてみる ・IT業界での見積もりとの違いについて理解	
13	演習1：要求分析	ユーザーからの要求事項の洗い出し、ニーズの調査・分析することで、要求分析の手法やツールを学ぶ。	・この講座で学んだ内容を振り返る ・卒業制作へフィードバックできる準備	
14	演習2：要求定義	要求事項を基に使用を明確に定める演習。要求定義書の作成や顧客との合意形成を学ぶ。	・この講座で学んだ内容を振り返る ・卒業制作へフィードバックできる準備	
15	演習3：基本設計	画面設計やデータベース設計、外部システムとの連携設計などを学ぶ。	・この講座で学んだ内容を振り返る ・卒業制作へフィードバックできる準備	
16	演習4：詳細設計	基本設計をもとにシステムの内部設計を行うことで、クラスやモジュールの設計、通信手順の詳細な設計方法を学ぶ。	・この講座で学んだ内容を振り返る ・卒業制作へフィードバックできる準備	

4. 教科書・参考文献

教科書	はじめての上流工程をやり抜くための本: システム化企画から要件定義、基本設計まで [翔泳社] 2,508円	参考文献	必要に応じた資料の配布
-----	---	------	-------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨んでください。
 復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身につけたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出された課題等について論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

授業態度:20%(出席を前提とする参加・発言等、主体的学習態度)、習熟度:40%(小テストなど)、課題提出:40%
 主体的に学習することを心掛けてください

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
クラウドコンピューティング I		講義	20	9月～2月	3年次	
担当者名	※実務経歴	単位数	履修形態	クラス		
池田 洋介	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	2	必修	ICTP3		

1. 科目の概要および目的

AWS (AmazonWebServices) を題材に、クラウドサービスを利用するメリット、活用事例について学ぶことで、デジタル・トランスフォーメーション (DX) やCPSの基盤をなすクラウドコンピューティングについて理解し、契約や責任分担、個人情報保護などのガイドラインを学びます。現実社会で必要なクラウド運用技術と応用能力を習得することを目的とします。

2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)

- ・クラウドサービスの基本的な概念を理解する。
- ・クラウドプロバイダー (AWS) の主要なサービスと機能を知る
- ・クラウドアーキテクチャの設計と実装について学ぶ
- ・クラウドセキュリティとプライバシーの考慮事項を理解する。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	クラウドコンピューティング入門	クラウドコンピューティングについて概要とメリットについて学習する。	・本科目名について事前に調べてみる ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
2	AWS入門	アマゾンウェブサービス (AWS) についての概要と移行について学習する。	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
3	クラウドエコノミクスと請求 (1)	料金の基本と総所有コストについて学び、導入事例と請求とコスト管理について理解する。	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
4	クラウドエコノミクスと請求 (2)	課金ダッシュボードの学習とテクニカルサポートのモデルについて理解する	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
5	グローバルインフラストラクチャの概要 (1)	AWSグローバルインフラストラクチャとサービスカテゴリについて学習する。(その1)	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
6	グローバルインフラストラクチャの概要 (2)	AWSグローバルインフラストラクチャとサービスカテゴリについて学習する。(その2)	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
7	クラウドのセキュリティ (1)	AWSの責任共有モデルとIAMについてDemoを通して学習する。	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
8	クラウドのセキュリティ (2)	アカウント、データの保護について、コンプライアンスを確保するための取り組みについて学習する	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
9	ネットワークとコンテンツ配信 (1)	ネットワークの基本を学習しながらAmazonVPCにおけるネットワークとセキュリティについて学習する	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
10	ネットワークとコンテンツ配信 (2)	前回は引き続き、Route53とCloudFrontについて教材を交えながら学習する	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
11	コンピューティング (1)	コンピューティングサービスの概要について、AmazonECを参考にコスト最適化について学習	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
12	コンピューティング (2)	前回は引き続き、コンテナサービスとLambda、ElasticBeanstalkについて学習する	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
13	ストレージ (1)	AWS EBS (Amazon Elastic Block Stone) について、Demoを通じて学習する。	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
14	ストレージ (2)	AWS EFS (AmazonElasticFileSystem) についてDemoを通じて学習する。	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
15	データベース (1)	Amazon RDSについて、サーバーを構築し、アプリケーションを操作して学習する	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
16	データベース (2)	AWS DynamoDBについてDemoを通じて学習する。	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
17	クラウドアーキテクチャ (1)	AWS Well-Architectedフレームワークの設計原則について学習する。	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
18	クラウドアーキテクチャ (2)	前回は引き続き、運用上の優秀性、セキュリティ、信頼性、パフォーマンス、コスト、可用性を学習	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
19	自動スケーリングとモデル (1)	ElasticLoadBalancing、Amazon CloudWatchについて学習する。	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
20	自動スケーリングとモデル (2)	前回は引き続き、Amazon EC2 AutoScalingとアーキテクチャのスケールと負荷分散について学習する	・授業で学んだ内容の復習を行うこと	

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
情報基礎A		講義	48	4月～7月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	3	必修	IT科		

1. 科目の概要および目的

ITパスポート試験の合格を目的として、模擬試験、解説、講義、苦手分野の集中講義など、合格に向けてのサポートを行います。
 【テクノロジ系】：2進数、アルゴリズム、パソコンのしくみ、プログラミング、セキュリティ、ネットワークなど
 【ストラテジ系】：知的財産権、個人情報保護法、経営の基本、マーケティング、企業活動に関する知識など
 【マネジメント系】：システム・ソフトウェア開発手法、プロジェクト管理、ITサービスマネジメントなど

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

情報処理試験「ITパスポート」の合格。
 知的財産や経営の基本、マーケティングといったストラテジ系知識。システム開発手法、プロジェクト管理、サービスマネジメントなどのマネジメント系知識。アルゴリズム、セキュリティ、ネットワークなどのテクノロジ系分野の知識の習得。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	テクノロジ系1	情報理論（2進数、奇数変換、メモリ/時間の単位など）	・長さや重さと時間の単位を予習しておく ・情報処理では必須知識のため必ず復習する	
2	テクノロジ系2	ハードウェア（メモリ、入出力装置など）、確立と統計	・スマートフォンのしくみを調べてみる ・情報処理では必須知識のため必ず復習する	
3	テクノロジ系3	ソフトウェア（ファイル管理、バックアップ、表計算、ユーザインタフェース、マルチメディアなど）	・分からない用語はチェックしておく ・授業終了時点で不明な点ば、必ず質問欄に記入	
4	テクノロジ系4	システム構成（コンピュータの形態、信頼性、システム評価など）	・分からない用語はチェックしておく ・授業終了時点で不明な点ば、必ず質問欄に記入	
5	★テクノロジ系おさらい	確認のための小テスト	・今までのテクノロジ系の内容を予習しておく ・間違った問題は必ず見直すこと	
6	アルゴリズム1	アルゴリズムとデータ構造、疑似言語	・フローチャートの見方を予習しておく ・基本情報にも通じる知識のため復習が重要	
7	アルゴリズム2	プログラム言語、マークアップ言語など	・分からない用語はチェックしておく ・授業終了時点で不明な点ば、必ず質問欄に記入	
8	★アルゴリズムおさらい	確認のための小テスト	・今までのアルゴリズムの内容を予習しておく ・間違った問題は必ず見直すこと	
9	ストラテジ系1	企業活動と法務その1（財務諸表、損益分岐点、知的財産権など）	・覚える用語が多い回のため、予習をお勧め ・学生に聞きなれない用語が頻繁に出るので注意	
10	ストラテジ系2	企業活動と法務その2（セキュリティ関連法規、労務関連、業務分析、標準化など）	・覚える用語が多い回のため、予習をお勧め ・学生に聞きなれない用語が頻繁に出るので注意	
11	ストラテジ系3	経営システム戦略その1（企業活動、内部統制、情報システム戦略、業務プロセス、マーケティング戦略、技術戦略など）	・覚える用語が多い回のため、予習をお勧め ・学生に聞きなれない用語が頻繁に出るので注意	
12	ストラテジ系4	経営システム戦略（経営管理システム、e-ビジネス、ビッグデータ、IoTシステムと組み込みシステム、AI、システム活用促進など）	・覚える用語が多い回のため、予習をお勧め ・学生に聞きなれない用語が頻繁に出るので注意	
13	★ストラテジ系おさらい	確認のための小テスト	・今までのストラテジ系の内容を予習しておく ・間違った問題は必ず見直すこと	
14	模擬試験と解説	模擬試験と解説 （テクノロジ、アルゴリズム、ストラテジ系）	・今まで習った内容をおさらいしておく ・間違った問題は必ず見直すこと	
15	模擬試験と解説	模擬試験と解説 （テクノロジ、アルゴリズム、ストラテジ系）	・今まで習った内容をおさらいしておく ・間違った問題は必ず見直すこと	
16	模擬試験と解説	模擬試験と解説 （テクノロジ、アルゴリズム、ストラテジ系）	・今まで習った内容をおさらいしておく ・間違った問題は必ず見直すこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	ITパスポートをひとつひとつわかりやすく。 [Gakken] 1,760円	参考文献	IPA公式過去問題
-----	---------------------------------------	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨んでください。
 復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出された試験・課題等について論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

授業態度：20%（アンケートなどによる参加・発言等、主体的学習態度）、習熟度：20%（確認テストなど）、科目試験60%
 ITパスポート合格：80%（習熟度・科目試験と差し替えて換算します）
 主体的に学習することを心掛けてください

8. 備考

--

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
C言語		演習	48	4月～7月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	1	必修	ICTP3		

1. 科目の概要および目的

組み込み系を中心に幅広い分野で幅広く利用されているC言語。この科目ではC言語によるプログラミング開発の技術の身に付けます。開発ツールを用いてコーディング～実行を行うことで理解度を深めます。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

C言語のプログラミング技術の基礎知識。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	C言語の概要	C言語の特徴。機械語、アセンブリ言語、コンパイラ言語。文法と字句、プログラムの構成要素。	・今まで学んだ言語との違いを予習しておく ・エディターに慣れるよう復習する	
2	プログラムの基礎	定数、変数、データ型、修飾子、列挙型	・C#など他言語との違いを予習しておく ・簡単なコーディングで確認しておく	
3	入出力と演算子	画面出力、キーボードからの入力、演算子	・今まで学んだ言語との違いを予習しておく ・他のプログラミング言語との違いを確認	
4	※今までの振り返り	練習問題など	・デバッグ操作になれておくこと	
5	処理の流れ	式と文、分岐、繰り返し	・今まで学んだ言語との違いを予習しておく ・他のプログラミング言語との違いを確認	
6	関数	C言語での関数、main関数、宣言と定義、値渡しなど	・C#など他言語との違いを予習しておく ・簡単なコーディングで確認しておく	
7	※今までの振り返り	練習問題など	・ネットから参考例を探してみる ・授業の内容以外についても試してみる	
8	記憶クラスと適応範囲	グローバル変数とローカル変数、ブロック化、記憶クラスレジスタ変数など	・C言語独特のルールなどを理解しておく	
9	配列	C言語の配列、多次元配列、関数渡し	・C#など他言語との違いを予習しておく ・簡単なコーディングで確認しておく	
10	ポインタ1	ポインタ変数の基礎、関節参照、配列のポインタなど	・C言語で特に重要となる知識。理解するまでに時間が掛かるので予習復習はしっかりと	
11	ポインタ2	ポインタに関連する練習問題	〃	
12	構造体と共用体	構造体と配列、構造体の定義、構造体の参照、構造体の初期化など	・プログラミング言語毎に規則の違いなどがあるため、注意して思えること	
13	高度な知識	ファイル処理、標準関数、プリプロセッサなど	・今後に備えて簡単なレクチャーを実施	
14	総合練習1	練習問題を通して理解度を上げる	・今までの中で曖昧にしていたところは、必ずここで見直し・確認を行うこと	
15	総合練習2	〃	〃	
16	総合練習3（まとめ）	練習問題と科目試験		

4. 教科書・参考文献

教科書	入門C言語 [実教出版] 2,547円	参考文献	
-----	---------------------	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出された試験・課題等について論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

授業態度:20%(アンケートなどによる参加・発言等、主体的学習態度)、習熟度:20%(確認テストなど)、科目試験60%
主体的に学習することを心掛けてください

8. 備考

--

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策 I (ITパスポート)	講義	80	9月～2月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	5	必修	ICTP1 SE1 ITE1	

1. 科目の概要および目的

ITパスポート試験合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。

- ・基本的な情報技術
- ・IT分野の基礎知識
- ・試験合格に向けて効果的な学習戦略

2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)

ITパスポート試験の合格。基本情報技術の理解と基礎知識。プログラミングとアルゴリズム能力。情報セキュリティーとプライバシー。ITプロジェクトと品質管理能力。ITの法規制と倫理。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	公式過去問題 (令和5年)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
2	公式過去問題 (令和4年)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
3	公式過去問題 (令和3年)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
5	公式過去問題 (令和2年10月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
6	公式過去問題 (令和元年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
7	公式過去問題 (平成31年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
9	公式過去問題 (平成30年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
10	公式過去問題 (平成30年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
11	公式過去問題 (平成29年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
13	公式過去問題 (平成29年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
14	公式過去問題 (平成28年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
15	公式過去問題 (平成28年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
17	公式過去問題 (平成27年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
18	公式過去問題 (平成27年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
19	公式過去問題 (平成26年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
20	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	ITパスポートをひとつひとつわかりやすく。 [Gakken] 1,760円	参考文献	IPA公式過去問題
-----	---------------------------------------	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨むこと
復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身につけたことを活かせるように理解しておくこと

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
ITパスポート合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策Ⅱ (ITパスポート) 前期		講義	96	4月～7月	2年次	
担当者名	※実務経歴	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経歴14年。	6	必修	ICTP1 SE1 ITE1		

1. 科目の概要および目的

ITパスポート試験合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。

- ・基本的な情報技術
- ・IT分野の基礎知識
- ・試験合格に向けて効果的な学習戦略

2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)

ITパスポート試験の合格。
基本情報技術の理解と基礎知識。プログラミングとアルゴリズム能力。情報セキュリティーとプライバシー。ITプロジェクトと品質管理能力。ITの法規制と倫理。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	模擬試験 1	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
2	模擬試験 2	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
3	模擬試験 3	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からMIXで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
5	模擬試験 4	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
6	模擬試験 5	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
7	模擬試験 6	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からMIXで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
9	模擬試験 7	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
10	模擬試験 8	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
11	模擬試験 9	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からMIXで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
13	模擬試験 10	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
14	模擬試験 11	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
15	模擬試験 12	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からMIXで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	ITパスポートをひとつひとつわかりやすく。 [Gakken] 1,760円	参考文献	模擬試験問題
-----	---------------------------------------	------	--------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身につけたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
ITパスポート合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

--

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策Ⅱ (ITパスポート) 後期		講義	80	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	5	必修	ICTP1 SE1 ITE1		

1. 科目の概要および目的

ITパスポート試験合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。

- ・基本的な情報技術に関する理解を深めます。
- ・IT分野の基礎知識を習得します。
- ・試験合格に向けて効果的な学習戦略を身につけます。

2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)

ITパスポート試験の合格。基本情報技術の理解と基礎知識。プログラミングとアルゴリズム能力。情報セキュリティーとプライバシー。ITプロジェクトと品質管理能力。ITの法規制と倫理。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	公式過去問題 (令和5年)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
2	公式過去問題 (令和4年)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
3	公式過去問題 (令和3年)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
5	公式過去問題 (令和2年10月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
6	公式過去問題 (令和元年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
7	公式過去問題 (平成31年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
9	公式過去問題 (平成30年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
10	公式過去問題 (平成30年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
11	公式過去問題 (平成29年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
13	公式過去問題 (平成29年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
14	公式過去問題 (平成28年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
15	公式過去問題 (平成28年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
17	公式過去問題 (平成27年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
18	公式過去問題 (平成27年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
19	公式過去問題 (平成26年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
20	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	ITパスポートをひとつひとつわかりやすく。 [Gakken] 1,760円	参考文献	IPA公式過去問題
-----	---------------------------------------	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨んでください。
 復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
 ITパスポート合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策Ⅲ (ITパスポート) 前期	講義	96	4月～7月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	6	必修	ICTP3	

1. 科目の概要および目的	2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)
ITパスポート試験合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。 <ul style="list-style-type: none"> 基本的な情報技術 IT分野の基礎知識 試験合格に向けて効果的な学習戦略 	ITパスポート試験の合格。 基本情報技術の理解と基礎知識。プログラミングとアルゴリズム能力。情報セキュリティとプライバシー。ITプロジェクトと品質管理能力。ITの法規制と倫理。

3. 授業内容				
週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	模擬試験 1	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
2	模擬試験 2	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
3	模擬試験 3	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回 3 回分からMIXで出題 習熟度の確認と見直しを行う	<ul style="list-style-type: none"> 前回 3 回分の予習を重点的に行うこと 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
5	模擬試験 4	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
6	模擬試験 5	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
7	模擬試験 6	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回 3 回分からMIXで出題 習熟度の確認と見直しを行う	<ul style="list-style-type: none"> 前回 3 回分の予習を重点的に行うこと 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
9	模擬試験 7	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
10	模擬試験 8	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
11	模擬試験 9	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回 3 回分からMIXで出題 習熟度の確認と見直しを行う	<ul style="list-style-type: none"> 前回 3 回分の予習を重点的に行うこと 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
13	模擬試験 10	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
14	模擬試験 11	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
15	模擬試験 12	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回 3 回分からMIXで出題 習熟度の確認と見直しを行う	<ul style="list-style-type: none"> 前回 3 回分の予習を重点的に行うこと 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	

4. 教科書・参考文献

教科書	ITパスポートをひとつひとつわかりやすく。 [Gakken] 1,760円	参考文献	模擬試験問題
-----	---------------------------------------	------	--------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身につけたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
ITパスポート合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策Ⅲ (ITパスポート) 後期		講義	80	9月～2月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	5	必修	ICTP3		

1. 科目の概要および目的	2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)
ITパスポート試験合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。 <ul style="list-style-type: none"> 基本的な情報技術に関する理解を深めます。 IT分野の基礎知識を習得します。 試験合格に向けて効果的な学習戦略を身につけます。 	ITパスポート試験の合格。基本情報技術の理解と基礎知識。プログラミングとアルゴリズム能力。情報セキュリティーとプライバシー。ITプロジェクトと品質管理能力。ITの法規制と倫理。

3. 授業内容				
週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	公式過去問題 (令和5年)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
2	公式過去問題 (令和4年)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
3	公式過去問題 (令和3年)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	<ul style="list-style-type: none"> 前回3回分の予習を重点的に行うこと 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
5	公式過去問題 (令和2年10月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
6	公式過去問題 (令和元年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
7	公式過去問題 (平成31年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	<ul style="list-style-type: none"> 前回3回分の予習を重点的に行うこと 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
9	公式過去問題 (平成30年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
10	公式過去問題 (平成30年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
11	公式過去問題 (平成29年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	<ul style="list-style-type: none"> 前回3回分の予習を重点的に行うこと 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
13	公式過去問題 (平成29年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
14	公式過去問題 (平成28年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
15	公式過去問題 (平成28年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	<ul style="list-style-type: none"> 前回3回分の予習を重点的に行うこと 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
17	公式過去問題 (平成27年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
18	公式過去問題 (平成27年春)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
19	公式過去問題 (平成26年秋)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	<ul style="list-style-type: none"> 本番を想定して多年度の予習もしておく 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	
20	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	<ul style="list-style-type: none"> 前回3回分の予習を重点的に行うこと 不正解問題の復習を重点的に行うこと 	

4. 教科書・参考文献

教科書	ITパスポートをひとつひとつわかりやすく。 [Gakken] 1,760円	参考文献	IPA公式過去問題
-----	---------------------------------------	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
ITパスポート合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策 I (基本科目 A)		講義	80	9月～2月	1年次	
担当者名	※実務経歴	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経歴14年。	5	必修	IT科		

1. 科目の概要および目的	2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)
<p>基本情報技術者試験 (IPA修了試験) 合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。</p> <p>主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な情報技術 IT分野の基礎知識 試験合格に向けて効果的な学習戦略 	<p>基本情報技術者試験の合格。</p> <p>基本情報技術の基礎知識。データ構造とアルゴリズム。ネットワークとセキュリティ。システム開発技術、ITプロジェクトとサービスマネジメント。ITの法規制と倫理、経営戦略など。</p>

3. 授業内容				
週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	公式過去問題 (令和5年12月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
2	公式過去問題 (令和5年7月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
3	公式過去問題 (令和5年6月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
5	公式過去問題 (令和5年1月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
6	公式過去問題 (令和4年12月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
7	公式過去問題 (令和4年7月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
9	公式過去問題 (令和4年6月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
10	公式過去問題 (令和4年1月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
11	公式過去問題 (令和3年12月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
13	公式過去問題 (令和3年7月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
14	公式過去問題 (令和3年6月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
15	公式過去問題 (令和3年1月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
17	公式過去問題 (令和2年12月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
18	公式過去問題 (令和2年7月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
19	公式過去問題 (令和2年6月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
20	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	IPA公式過去問題
-----	----	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨むこと
復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくこと

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
基本情報技術者試験合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策 I (基本科目 A)		講義	80	9月～2月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	5	必修	IT科		

1. 科目の概要および目的	2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)
<p>基本情報技術者試験 (IPA修了試験) 合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。</p> <p>主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な情報技術 IT分野の基礎知識 試験合格に向けて効果的な学習戦略 	<p>基本情報技術者試験の合格。</p> <p>基本情報技術の基礎知識。データ構造とアルゴリズム。ネットワークとセキュリティ。システム開発技術、ITプロジェクトとサービスマネジメント。ITの法規制と倫理、経営戦略など。</p>

3. 授業内容				
週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	公式過去問題 (令和5年12月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
2	公式過去問題 (令和5年7月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
3	公式過去問題 (令和5年6月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
5	公式過去問題 (令和5年1月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
6	公式過去問題 (令和4年12月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
7	公式過去問題 (令和4年7月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
9	公式過去問題 (令和4年6月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
10	公式過去問題 (令和4年1月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
11	公式過去問題 (令和3年12月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
13	公式過去問題 (令和3年7月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
14	公式過去問題 (令和3年6月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
15	公式過去問題 (令和3年1月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
17	公式過去問題 (令和2年12月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
18	公式過去問題 (令和2年7月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
19	公式過去問題 (令和2年6月)	過去問題 (模擬試験) をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
20	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的にしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	IPA公式過去問題
-----	----	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨むこと
復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身につけたことを活かせるように理解しておくこと

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
基本情報技術者試験合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策Ⅱ（基本科目A）前期	講義	96	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	6	必修	IT科	

1. 科目の概要および目的

基本情報技術者試験（IPA修了試験）合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。
 主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。
 ・基本的な情報技術
 ・IT分野の基礎知識
 ・試験合格に向けて効果的な学習戦略

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

基本情報技術者試験の合格。
 基本情報技術の基礎知識。データ構造とアルゴリズム。ネットワークとセキュリティ。システム開発技術、ITプロジェクトとサービスマネジメント。ITの法規制と倫理、経営戦略など。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	公式過去問題 (令和2年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
2	公式過去問題 (令和元年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
3	公式過去問題 (令和元年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
5	公式過去問題 (令和元年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
6	公式過去問題 (令和元年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
7	公式過去問題 (平成30年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
9	公式過去問題 (平成30年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
10	公式過去問題 (平成30年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
11	公式過去問題 (平成30年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
13	公式過去問題 (平成29年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
14	公式過去問題 (平成29年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
15	公式過去問題 (平成29年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	IPA公式過去問題
-----	----	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨むこと
 復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくこと

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
 基本情報技術者試験合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策Ⅱ（基本科目A）後期	講義	80	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	5	必修	IT科	

1. 科目の概要および目的

基本情報技術者試験（IPA修了試験）合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。
 主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。
 ・基本的な情報技術
 ・IT分野の基礎知識
 ・試験合格に向けて効果的な学習戦略

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

基本情報技術者試験の合格。
 基本情報技術の基礎知識。データ構造とアルゴリズム。ネットワークとセキュリティ。システム開発技術、ITプロジェクトとサービスマネジメント。ITの法規制と倫理、経営戦略など。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	公式過去問題 (令和5年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
2	公式過去問題 (令和5年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
3	公式過去問題 (令和5年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
5	公式過去問題 (令和5年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
6	公式過去問題 (令和4年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
7	公式過去問題 (令和4年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
9	公式過去問題 (令和4年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
10	公式過去問題 (令和4年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
11	公式過去問題 (令和3年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
13	公式過去問題 (令和3年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
14	公式過去問題 (令和3年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
15	公式過去問題 (令和3年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
17	公式過去問題 (令和2年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
18	公式過去問題 (令和2年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
19	公式過去問題 (令和2年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
20	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	IPA公式過去問題
-----	----	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨むこと
 復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくこと

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
 基本情報技術者試験合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策Ⅲ（基本科目A）前期		講義	96	9月～2月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	6	必修	ICTP3		

1. 科目の概要および目的

基本情報技術者試験（IPA修了試験）合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。
 主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。
 ・基本的な情報技術
 ・IT分野の基礎知識
 ・試験合格に向けて効果的な学習戦略

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

基本情報技術者試験の合格。
 基本情報技術の基礎知識。データ構造とアルゴリズム。ネットワークとセキュリティ。システム開発技術、ITプロジェクトとサービスマネジメント。ITの法規制と倫理、経営戦略など。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	公式過去問題 (令和2年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
2	公式過去問題 (令和元年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
3	公式過去問題 (令和元年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
5	公式過去問題 (令和元年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
6	公式過去問題 (令和元年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
7	公式過去問題 (平成30年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
9	公式過去問題 (平成30年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
10	公式過去問題 (平成30年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
11	公式過去問題 (平成30年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
13	公式過去問題 (平成29年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
14	公式過去問題 (平成29年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
15	公式過去問題 (平成29年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	IPA公式過去問題
-----	----	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨むこと
 復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくこと

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
 基本情報技術者試験合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策Ⅲ（基本科目A）後期		講義	80	9月～2月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	5	必修	ICTP3		

1. 科目の概要および目的

基本情報技術者試験（IPA修了試験）合格に向けて、必要な知識と技能を網羅的に学習します。
 主な内容として過去問題と模擬試験を中心に以下のことを学習します。
 ・基本的な情報技術
 ・IT分野の基礎知識
 ・試験合格に向けて効果的な学習戦略

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

基本情報技術者試験の合格。
 基本情報技術の基礎知識。データ構造とアルゴリズム。ネットワークとセキュリティ。システム開発技術、ITプロジェクトとサービスマネジメント。ITの法規制と倫理、経営戦略など。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	公式過去問題 (令和5年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
2	公式過去問題 (令和5年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
3	公式過去問題 (令和5年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
4	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
5	公式過去問題 (令和5年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
6	公式過去問題 (令和4年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
7	公式過去問題 (令和4年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
8	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
9	公式過去問題 (令和4年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
10	公式過去問題 (令和4年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
11	公式過去問題 (令和3年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
12	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
13	公式過去問題 (令和3年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
14	公式過去問題 (令和3年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
15	公式過去問題 (令和3年1月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
16	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
17	公式過去問題 (令和2年12月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
18	公式過去問題 (令和2年7月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
19	公式過去問題 (令和2年6月)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・本番を想定して多年度の予習もしておく ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	
20	公式過去問題 (ランダム回)	前回3回分からランダムで出題 習熟度の確認と見直しを行う	・前回3回分の予習を重点的に行うこと ・不正解問題の復習を重点的に行うこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	IPA公式過去問題
-----	----	------	-----------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨むこと
 復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくこと

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(ランダム回の結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
 基本情報技術者試験合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
基本情報技術		講義	60	9月～2月	1年次	
担当者名	※実務経歴	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	4	必修	ICTP1 SE1		

1. 科目の概要および目的

基本情報技術者試験（サーティファイ情報処理技術者能力認定試験）合格に向けて、前期の「情報基礎A・B」を基礎にさらに必要とされる知識と技能を学習します。主な内容として過去問題を中心に以下のことを学習します。

- ・プログラミング言語とアルゴリズム
- ・データベースの基礎
- ・ネットワーク/セキュリティの基礎
- ・システム開発の基礎

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の合格。基本情報技術者試験（科目A）合格に必要な基礎知識。IPA修了試験受験に必要な条件。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	ベーステクノロジー1	アルゴリズムとデータ構造（データ構造の基礎、探索、整列アルゴリズム）	・テキストを参考に予習しておく ・講義で出した内容は復習しておくこと	
2	ベーステクノロジー2	コンピュータの構成要素（プロセッサと高速化技術、アドレッシングなど） ソフトウェア（タスク管理と記憶管理など）	・テキストを参考に予習しておく ・講義で出した内容は復習しておくこと	
3	システムと開発1	データベース（関係演算、正規化、SELET文など）	・テキストを参考に予習しておく ・講義で出した内容は復習しておくこと	
4	システムと開発2	ネットワーク（LAN/WAN、IPアドレスなど）	・テキストを参考に予習しておく ・講義で出した内容は復習しておくこと	
5	マネジメントと戦略1	プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント	・テキストを参考に予習しておく ・講義で出した内容は復習しておくこと	
6	マネジメントと戦略2	企業活動（財務会計、損益分岐点、原価計算など） 法務（知的財産、セキュリティ関連など）	・テキストを参考に予習しておく ・講義で出した内容は復習しておくこと	
7	公式過去問題1 (第65回)	過去問題を一問一答形式で出題・解説を行う。解説ではテキストを例に詳細に解答例を説明。	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
8	公式過去問題1 (第65回)	過去問題を一問一答形式で出題・解説を行う。解説ではテキストを例に詳細に解答例を説明。	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
9	公式過去問題2 (第64回)	過去問題を一問一答形式で出題・解説を行う。解説ではテキストを例に詳細に解答例を説明。	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
10	公式過去問題2 (第64回)	過去問題を一問一答形式で出題・解説を行う。解説ではテキストを例に詳細に解答例を説明。	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
11	公式過去問題3 (第63回)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
12	公式過去問題3 (第63回)	前回の解説の続き	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
13	公式過去問題4 (第62回)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
14	公式過去問題4 (第62回)	前回の解説の続き	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
15	公式過去問題5 (第61回)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
16	公式過去問題5 (第61回)	前回の解説の続き	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
17	公式過去問題 (自由)	試験直前は、各自の能力に応じて過去問題に挑戦。リクエストに応じて随時、解説を行う。	・今まで見た苦手問題を予習しておく ・理解できない問題はそのままにしないこと	
18	公式過去問題 (自由)	試験直前は、各自の能力に応じて過去問題に挑戦。リクエストに応じて随時、解説を行う。	・今まで見た苦手問題を予習しておく ・理解できない問題はそのままにしないこと	
19	公式過去問題6 (第60回)	過去問題（模擬試験）をマークシート形式で出題。解答集計後は網羅的に解説。また正答率や要望に応じてテーマを設定して詳細に解説。	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	
20	公式過去問題6 (第60回)	前回の解説の続き	・分かる範囲でテキストを参考に予習する ・理解できない問題はそのままにしないこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	基本情報技術者 試験対策テキストI【ベーステクノロジー編】 基本情報技術者 試験対策テキストII【システムの利用と開発編】 基本情報技術者 試験対策テキストIII【マネジメントと戦略編】	参考文献	サーティファイ公式過去問題
-----	---	------	---------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて教科書等を事前に読み、履修内容を確認して授業に臨むこと
 復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくこと

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたマークシート、解答データ、レポートについて論評・添削しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:20%(結果レポートなど)、提出物(模擬試験実施後の解答データ):60%
 サーティファイ情報処理能力認定試験合格:80%(提出物60%と差し替えて換算します)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
コミュニケーション技法	講義	36	4月～2月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	2	必修	ICTP3	

1. 科目の概要および目的

高度情報化社会といわれる現代の人間社会において、周囲の人たちと「良好な関係を構築・保持」しつつ、主体的に行動していくために自分の意志を的確に伝達するために学問的知識と技術的知識を習得します。
 (前期)はコミュニケーションを中心に学びます
 (後期)はプレゼンテーションを中心に学びます。

2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)

- ・対人マナー
- ・ビジネスマナー
- ・プレゼンテーション技法
- ・ビジネス文章を含む文章技法

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	人間コミュニケーションを理解する	コミュニケーションの4つの形態 コミュニケーションの基礎 コミュニケーション能力を高めるために基本	・コミュニケーションについて予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
2	ビジネスマナーの基本1	人間性の基本とビジネスマナー あいさつの基本 人間関係のマナー	・ビジネスマナーについて予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
3	ビジネスマナーの基本2	挨拶のマナー あいさつの基本 (朝のあいさつ、退社時のあいさつ、社外、外出、退社時のあいさつなど)	・ビジネスマナーについて予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
4	ビジネスマナーの基本3	職場内のマナーについて 社内でのふるまい、身だしなみ、ハラスメントなど	・ビジネスマナーについて予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
5	ビジネスマナーの基本4	電話対応のマナーについて 電話のかけ方、受け方、TPOなど	・ビジネスマナーについて予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
6	ビジネスマナーの基本3	来客・応接室などのマナーについて 名刺交換、席次、エレベーターなど	・ビジネスマナーについて予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
7	話し方の基本1	話し言葉について 基礎知識と留意点。手順とポイントなど	・会話の方法について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
8	話し方の基本2	さまざまな話し方 気をつけなければならない話し方、方便など	・会話の方法について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
9	話し方の基本3	話の準備手順 効果的な話し方、聞き方など	・会話の方法について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
10	話し方の基本4	効果的な、やりとりの技法について 発問、応答、ボディランゲージなど	・会話の方法について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
11	文章技法の基礎1	文章技法の基礎 (文章のマナー) について 基本概念、準備手順とポイントなど	・ビジネス文書について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
12	文章技法の基礎2	文章を書くための留意点 分かりやすい書き方と手直しの重要性	・ビジネス文書について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
13	文書の基礎をマスター1	ビジネス文書の基礎知識について (その1) 社外文書の書き方、就活文書との共通点	・ビジネス文書について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
14	文書の基礎をマスター2	ビジネス文書の基礎知識について (その2) 電子メールの基礎知識	・ビジネス文書について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
15	文書の基礎をマスター3	ビジネス文書作成練習	・今までのビジネス文書技法について予習 ・授業で学んだ内容を今後活かせるように	
16	科目試験	ペーパー方式にて実施	・今までの学んだ内容を予習しておくこと	
17	プレゼンテーションの基礎1	自己紹介からコミュニケーションへ	・前期コミュニケーションについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
18	プレゼンテーションの基礎1	コミュニケーション・スキル	・前期コミュニケーションについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
19	プレゼンテーションの基礎2	非言語コミュニケーション	・前期コミュニケーションについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
20	プレゼンテーションの基礎3	アイデアを生み出す技術	・プレゼンテーションについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
21	プレゼンテーションの基礎4	プレゼンテーションの構造	・プレゼンテーションについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
22	プレゼンテーションの基礎5	主張の裏付けかた	・授業のテーマについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	

23	プレゼンテーションの基礎6	文章とプレゼンテーションの相似性	・授業のテーマについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと
24	プレゼンテーションの基礎7	レジュメの書き方	・授業のテーマについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと
25	プレゼンテーション実践1	意見の形成と主張	・授業のテーマについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと
26	プレゼンテーション実践2	時系列の叙述	・授業のテーマについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと
27	プレゼンテーション実践3	ものごとの説明	・授業のテーマについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと
28	プレゼンテーション実践4	ビジネス・トークにおける説得の倫理	・授業のテーマについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと
29	プレゼンテーション実践5	ディスカッションの基礎知識と実践	・授業のテーマについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと
30	プレゼンテーション実践6	ディベートの基礎知識と実践	・授業のテーマについて予習する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと
31	プレゼンテーション演習1	グループワーク	・今までの授業を踏まえてコミュニケーション能力を活かしたワークをイメージしておく
32	プレゼンテーション演習2	グループワーク	・今までの授業を踏まえてコミュニケーション能力を活かしたワークをイメージしておく
33	プレゼンテーション演習3	グループワーク	・今までの授業を踏まえてコミュニケーション能力を活かしたワークをイメージしておく
34	プレゼンテーション演習4	個人ワーク	・今までの授業を踏まえてコミュニケーション能力を活かしたワークをイメージしておく
35	プレゼンテーション演習5	個人ワーク	・今までの学んだ内容を予習しておくこと
36	科目試験	ペーパー方式にて実施	・今までの学んだ内容を予習しておくこと

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	ヒューマンスキルアップ講座「表現技法」
-----	----	------	---------------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせてネットなどで予習・調査、履修内容を確認して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたアンケート、解答データ、提出物について論評しますので忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

参加意欲：20%（アンケート、質問内容への応答など）、提出物（文書データなど）：30%、科目試験：50%

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
ゼミ I	講義	20	9月～2月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	1	必修	IT科	

1. 科目の概要および目的

キャリアデザイン（進路設計・就職活動）をサポートします。在籍中に選択できる科目の相談。就職活動におけるアドバイス、ポートフォリオ・履歴書・ビジネスメールなどの添削をサポートします。初回以降は自由参加型なので必要とする時に参加してください。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ・キャリアデザインに能動的に取り組むマインドの形成。
- ・自分の考えを文書や言葉にできる能力。
- ・ポートフォリオ、履歴書を含むビジネス文書作成技術の向上。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	オリエンテーション	ゼミの意義など説明。この時間の活用方法についてコース担当の講師紹介など（自己紹介アンケートの記入）	・自己紹介アンケートの準備	
2	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
3	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
4	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
5	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
6	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
7	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
8	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
9	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
10	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
11	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
12	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
13	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
14	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
15	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
16	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
17	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
18	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
19	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
20	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	
-----	----	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：相談したい内容（進路選択、文書添削、ポートフォリオなど）を事前に確認して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、各自内容を確認して今後の進路や就職活動に活かせるように取り組んでいくようにしてください。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたアンケート、解答データ、提出物については忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

初回授業を除く以降のゼミは参加自由としますが、自己紹介アンケート（こちらを単位認定対象としています）は必ず提出してください。

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
ゼミⅡ		講義	36	4月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	2	必修	IT科		

1. 科目の概要および目的

キャリアデザイン（進路設計・就職活動）をサポートします。在籍中に選択できる科目の相談。就職活動におけるアドバイス、ポートフォリオ・履歴書・ビジネスメールなどの添削をサポートします。初回以降は自由参加型なので必要とする時に参加してください。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ・キャリアデザインに能動的に取り組むマインドの形成。
- ・自分の考えを文書や言葉にできる能力。
- ・ポートフォリオ、履歴書を含むビジネス文書作成技術の向上。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	オリエンテーション	ゼミの意義など説明。この時間の活用方法についてコース担当の講師紹介など（自己紹介アンケートの記入）	・自己紹介アンケートの準備	
2	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
3	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
4	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
5	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
6	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
7	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
8	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
9	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
10	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
11	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
12	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
13	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
14	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
15	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
16	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
17	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
18	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
19	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
20	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
21	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
22	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談（随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	

23	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
24	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
25	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
26	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
27	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
28	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
29	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
30	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
31	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
32	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
33	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
34	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
35	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと
36	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	
-----	----	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：相談したい内容（進路選択、文書添削、ポートフォリオなど）を事前に確認して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、各自内容を確認して今後の進路や就職活動に活かせるように取り組んでいくようにしてください。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたアンケート、解答データ、提出物については忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

初回授業を除く以降のゼミは参加自由としますが、自己紹介アンケート（こちらを単位認定対象としています）は必ず提出してください。

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
ゼミⅢ	講義	36	4月～2月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	2	必修	IT科	

1. 科目の概要および目的

キャリアデザイン（進路設計・就職活動）をサポートします。在籍中に選択できる科目の相談。就職活動におけるアドバイス、ポートフォリオ・履歴書・ビジネスメールなどの添削をサポートします。初回以降は自由参加型なので必要とする時に参加してください。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ・キャリアデザインに能動的に取り組むマインドの形成。
- ・自分の考えを文書や言葉にできる能力。
- ・ポートフォリオ、履歴書を含むビジネス文書作成技術の向上。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	オリエンテーション	ゼミの意義など説明。この時間の活用方法について コース担当の講師紹介など（自己紹介アンケートの記入）	・自己紹介アンケートの準備	
2	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
3	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
4	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
5	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
6	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
7	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
8	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
9	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
10	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
11	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
12	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
13	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
14	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
15	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
16	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
17	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
18	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
19	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
20	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
21	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	
22	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 （随時、コース別に執り行う場合もあり）	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後活かすこと	

23	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
24	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
25	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
26	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
27	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
28	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
29	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
30	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
31	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
32	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
33	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
34	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
35	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと
36	ゼミ	進路に関する講義、および各種個別相談 (随時、コース別に執り行う場合もあり)	・相談したい内容をまとめておくこと ・アドバイスを受けた内容を今後に活かすこと

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	
-----	----	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：相談したい内容（進路選択、文書添削、ポートフォリオなど）を事前に確認して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、各自内容を確認して今後の進路や就職活動に活かせるように取り組んでいくようにしてください。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたアンケート、解答データ、提出物については忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

初回授業を除く以降のゼミは参加自由としますが、自己紹介アンケート（こちらを単位認定対象としています）は必ず提出してください。

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
卒業制作 (SE2)		講義	140	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	5	必修	SE2		

1. 科目の概要および目的

これまでに習得した知識とスキルを活かして、チームでの開発を学びます。システムは課題分析手法、ゲームはユーザーニーズ分析手法によって、企画から作品作りを進めていきます。（※開発モデルは自由）

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ・プロジェクトマネジメント技法
- ・UI/UXデザイン技術
- ・プレゼンテーション技法
- ・ドキュメント制作能力
- ・セルフマネジメント能力

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	制作を始めるまえに	この時間の意義を説明。プロジェクトチーム（開発チーム）の選定をする。	・チームでの開発について考えておく ・講義を参考に作品内容を固めていく	
2	作品の企画・検討	制作の概要、ルールを基に取り掛かる作品（カテゴリ、作品概要）を考える。作品の企画書を検討。	・事前に取り組みたい作品について考えてみる ・講義を参考にチームで作品内容を考える	
3	作品の企画発表	前回検討した企画内容を各チームごとに発表を行う。	・企画発表に向けて発表資料を備えておく ・他のチームの作品も参考に進める	
4	作品制作（仕様・設計1）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・前回は参考に時間外でも検討しておく ・時間内に完成しない場合は、次回までに提出	
5	作品制作（仕様・設計2）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・企画書からの追記も検討しておく ・様々なものを参考に考えてみる	
6	作品制作（開発1）	前回までの仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
7	作品制作（開発2）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
8	作品制作（開発3）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
9	作品制作（開発4）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
10	作品制作（開発5）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
11	中間発表	現状までの途中経過を発表。デモプレイなどで作品の完成度を報告する。	・メンバーで手分けして準備作業を進めておく ・他チームからのアドバイスも今後の参考に	
12	作品制作（進捗調整）	前回の進捗からの軌道修正と開発の続きを行う。機能追加もここで調整する。	・後半の進捗についても確認しておくこと	
13	作品制作（開発6）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
14	作品制作（開発5）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
15	作品制作（開発6）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
16	作品制作（開発7）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
17	作品制作（開発8）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
18	作品制作（まとめ）	作品発表に向けてのまとめとブラッシュアップを行う。※発表できる品質を保つためにテストをしっかりと実施する	・期限内に納められない機能は見直しをする ・時間内に終わらないテストなどは時間外も考慮	
19	作品制作（発表準備）	発表に向けての資料作成（フリップ資料、ドキュメント整備、リハーサルの準備）	・パワーポイントとリハーサルは必須	
20	作品制作（発表）	各作品の発表会。	・設計資料と作品を提出できるように整える	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	
-----	----	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：作業中に相談したい内容は事前に準備して授業に臨んでください。
 復習内容：授業終了後、進捗内容をしっかり書き記してスムーズに再開ができるようにしてください。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたアンケート、作品を含む提出物については忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:30%(作品及び資料へのアドバイスに対するフィードバック、進捗管理など)、課題提出:30%、作品評価:40%
 主体的に学習することを心掛けてください

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
卒業制作 (ITE2)	講義	80	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	2	必修	ITE2	

1. 科目の概要および目的

これまでに習得した知識とスキルを活かして、チームでの開発を学びます。システムは課題分析手法、ゲームはユーザーニーズ分析手法によって、企画から作品作りを進めていきます。（※開発モデルは自由）

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ・プロジェクトマネジメント技法
- ・UI/UXデザイン技術
- ・プレゼンテーション技法
- ・ドキュメント制作能力
- ・セルフマネジメント能力

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	制作を始めるまえに	この時間の意義を説明。プロジェクトチーム（開発チーム）の選定をする。	・チームでの開発について考えておく ・講義を参考に作品内容を固めていく	
2	作品の企画・検討	制作の概要、ルールを基に取り掛かる作品（カテゴリー、作品概要）を考える。作品の企画書を検討。	・事前に取り組みたい作品について考えてみる ・講義を参考にチームで作品内容を考える	
3	作品の企画発表	前回検討した企画内容を各チームごとに発表を行う。	・企画発表に向けて発表資料を備えておく ・他のチームの作品も参考に進める	
4	作品制作（仕様・設計1）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・前回は参考に時間外でも検討しておく ・時間内に完成しない場合は、次回までに提出	
5	作品制作（仕様・設計2）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・企画書からの追記も検討しておく ・様々なものを参考に考えてみる	
6	作品制作（開発1）	前回までの仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
7	作品制作（開発2）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
8	作品制作（開発3）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
9	作品制作（開発4）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
10	作品制作（開発5）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
11	中間発表	現状までの途中経過を発表。デモプレイなどで作品の完成度を報告する。	・メンバーで手分けして準備作業を進めておく ・他チームからのアドバイスも今後の参考に	
12	作品制作（進捗調整）	前回の進捗からの軌道修正と開発の続きを行う。機能追加もここで調整する。	・後半の進捗についても確認しておくこと	
13	作品制作（開発6）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
14	作品制作（開発5）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
15	作品制作（開発6）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
16	作品制作（開発7）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
17	作品制作（開発8）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
18	作品制作（まとめ）	作品発表に向けてのまとめとブラッシュアップを行う。※発表できる品質を保つためにテストをしっかり実施する	・期限内に納められない機能は見直しをする ・時間内に終わらないテストなどは時間外も考慮	
19	作品制作（発表準備）	発表に向けての資料作成（フリップ資料、ドキュメント整備、リハーサルの準備）	・パワーポイントとリハーサルは必須	
20	作品制作（発表）	各作品の発表会。	・設計資料と作品を提出できるように整える	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	
-----	----	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：作業中に相談したい内容は事前に準備して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、進捗内容をしっかり書き記してスムーズに再開ができるようにしてください。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたアンケート、作品を含む提出物については忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:30%(作品及び資料へのアドバイスに対するフィードバック、進捗管理など)、課題提出:30%、作品評価:40%
主体的に学習することを心掛けてください

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
企業実習講座		講義	20	9月～2月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実		1	選択	ICTP1 SE1		

<p>1. 科目の概要および目的</p> <p>IT企業への就職の実践経験として、最前線で活躍されているIT企業より講師を迎えてシステム開発について学びます。実際の現場で培ったノウハウを基に要件定義、基本設計、開発、テスト、運用の一連の流れを学習していきます。</p>	<p>2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）</p> <p>情報システム開発における以下のことを学ぶことが出来ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を決めなければいけないのか ・何を資料化しなければならないのか ・アーキテクチャに応じた柔軟な開発プロセスの設計 ・テストの重要性 ・運用/保守と障害復旧などについて
--	--

3. 授業内容				
週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	システム開発の基礎 1	システム開発の目的について	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
2	システム開発の基礎 2	システム開発の種類について	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
3	システム開発の基礎 3	システム開発のプロセスとモデル	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
4	開発ライフサイクル 1	開発ライフサイクルの概要とフェーズについて	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
5	開発ライフサイクル 2	開発ライフサイクルのモデルについて	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
6	要件定義 1	要件定義の概要と種類	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
7	要件定義 2	ワーク 1 (要件定義まとめ)	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
8	要件定義 3	ワーク 2 (発表)	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
9	設計 1	設計の種類、プロセスとモデル	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
10	設計 2	ワーク 1 (システム設計演習)	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
11	設計 3	ワーク 2 (発表)	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
12	実装 1	実装の概要と種類	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
13	実装 2	実装のプロセスとモデル	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
14	テスト 1	テストの概要と種類	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
15	テスト 2	テストのプロセス	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
16	テスト 3	ワーク 1 (テスト仕様書の作成)	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
17	テスト 4	ワーク 2 (発表)	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
18	運用・保守 1	運用・保守の概要と種類	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
19	運用・保守 2	運用・保守のプロセスとモデル	・学内で学んだシステム開発を復習しておく ・講座で学んだ内容をしっかりと復習する	
20	まとめ	まとめとアンケート	・今後の活動に活かせるよう工夫する	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	
-----	----	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：シラバスに記載のある内容にあわせて予習・調査、履修内容を確認して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくように。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたアンケート、資料を含む提出物については忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:30%(質問やアドバイスに対するフィードバックなど)、課題提出:30%、課題評価:40%
主体的に学習することを心掛けてください(上記評価基準は企業によって異なる可能性があります。)

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
作品制作Ⅱ		演習	48	4月～2月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	3	必修	ICTP3		

1. 科目の概要および目的 2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

<p>就職活動に向けての実践経験として、IT業界へアピールするための作品を制作します。これまでに学んだ知識を基にテーマ・コンセプトと合わせて技術力を表現できる作品を作ること、ポートフォリオとしても使用できることを目的としています。</p> <p>前期の設計モデルは自由とします。 後期は前期の経験を活かして、ウォーターフォールモデルとします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・要件定義を意識した開発プロセスの理解。 ・実践的なスキルの習得 ・自己表現の場とした能動的行動力の向上。 ・ポートフォリオ（自分の作品集）への追加。 ・セルフマネジメント能力
---	--

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	作品制作を始めるまえに	この時間の意義を説明。作品の種類や参考例をあげてアイデアを提供する。	・事前に取り組みたい作品について考えてみる ・講義を参考に作品内容を固めていく	
2	作品の企画・検討	前回の講義を基に、制作に取り掛かる作品を考える。作品の企画書を作成。	・前回は参考に時間外でも検討しておく ・時間内に完成しない場合は、次回までに提出	
3	作品制作（仕様・設計1）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・企画書からの追記も検討しておく ・様々なものを参考に考えてみる	
4	作品制作（仕様・設計2）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・企画書からの追記も検討しておく ・様々なものを参考に考えてみる	
5	作品制作（開発1）	前回までの仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
6	作品制作（開発2）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
7	作品制作（開発3）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
8	作品制作（開発4）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
9	作品制作（進捗確認）	各自の進捗状況の確認。	・進捗確認が出来る資料を準備しておくこと	
10	作品制作（進捗調整）	前回の進捗からの軌道修正と開発の続きを行う。機能追加もここで調整する。	・後半の進捗についても確認しておくこと	
11	作品制作（開発5）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
12	作品制作（開発6）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
13	作品制作（開発7）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
14	作品制作（まとめ）	作品発表に向けてのまとめとブラッシュアップを行う。※発表できる品質を保つためにテストをしっかりと実施する	・時間内に終わらないテストなどは時間外も考慮	
15	作品制作（発表準備）	発表に向けての資料作成（フリップ資料、ドキュメント整備）	・パワーポイントは何度も見直しておくこと	
16	作品制作（発表）	各作品の発表会。（オンライン発表）	・設計資料と作品を提出できるように整える	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	
-----	----	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：作業中に相談したい内容は事前に準備して授業に臨んでください。
復習内容：授業終了後、進捗内容をしっかり書き記してスムーズに再開ができるようにしてください。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたアンケート、作品を含む提出物については忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:30%(作品及び資料へのアドバイスに対するフィードバック、進捗管理など)、課題提出:30%、作品評価:40%
主体的に学習することを心掛けてください

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
作品制作Ⅲ		演習	60	4月～2月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
小林 幸実	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	3	必修	ICTP3		

1. 科目の概要および目的

就職活動に向けての実践経験として、IT業界へアピールするための作品を制作します。これまでに学んだ知識を基にテーマ・コンセプトと合わせて技術力を表現できる作品を作ること、ポートフォリオとしても使用できることを目的としています。

前期の設計モデルは自由とします。

後期は前期の経験を活かして、ウォーターフォールモデルとします。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ・要件定義を意識した開発プロセスの理解。
- ・実践的なスキルの習得
- ・自己表現の場とした能動的行動力の向上。
- ・ポートフォリオ（自分の作品集）への追加。
- ・セルフマネジメント能力

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	作品制作を始めるまえに	この時間の意義を説明。作品の種類や参考例をあげてアイデアを提供する。	・事前に取り組みたい作品について考えてみる ・講義を参考に作品内容を固めていく	
2	作品の企画・検討	前回の講義を基に、制作に取り掛かる作品を考える。作品の企画書を作成。	・前回を参考に時間外でも検討しておく ・時間内に完成しない場合は、次回までに提出	
3	作品制作（仕様・設計1）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・企画書からの追記も検討しておく ・様々なものを参考に考えてみる	
4	作品制作（仕様・設計2）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・企画書からの追記も検討しておく ・様々なものを参考に考えてみる	
5	作品制作（開発1）	前回までの仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
6	作品制作（開発2）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
7	作品制作（開発3）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
8	作品制作（開発4）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
9	作品制作（開発5）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
10	作品制作（開発6）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
11	作品制作（進捗確認）	各自の進捗状況の確認。	・進捗確認が出来る資料を準備しておくこと	
12	作品制作（進捗調整）	前回の進捗からの軌道修正と開発の続きを行う。機能追加もここで調整する。	・後半の進捗についても確認しておくこと	
13	作品制作（開発5）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
14	作品制作（開発6）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
15	作品制作（開発7）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
16	作品制作（開発8）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
17	作品制作（開発9）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
18	作品制作（まとめ）	作品発表に向けてのまとめとブラッシュアップを行う。※発表できる品質を保つためにテストをしっかり実施する	・時間内に終わらないテストなどは時間外も考慮	
19	作品制作（発表準備）	発表に向けての資料作成（フリップ資料、ドキュメント整備）	・パワーポイントは何度も見直しておくこと	
20	作品制作（発表）	各作品の発表会。（オンライン発表）	・設計資料と作品を提出できるように整える	

4. 教科書・参考文献

教科書	なし	参考文献	
-----	----	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習内容：作業中に相談したい内容は事前に準備して授業に臨んでください。
 復習内容：授業終了後、進捗内容をしっかり書き記してスムーズに再開ができるようにしてください。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出されたアンケート、作品を含む提出物については忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

習熟度:30%(作品及び資料へのアドバイスに対するフィードバック、進捗管理など)、課題提出:30%、作品評価:40%
 主体的に学習することを心掛けてください

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
データベース		演習	72	4月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
池田 洋介	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	2	必修	ICTP2		

1. 科目の概要および目的

データベースは、情報を効率的に保存、管理、検索するためのシステムです。この科目ではデータベースの基本概念と、データベース操作のためのSQLクエリの書き方、SELECT、UPDATE、DELETEなどの基本文法を理解します。またデータベース設計と正規化、トランザクション管理。データベース全体を管理するバックアップ、リストア、セキュリティ、パフォーマンスチューニングなどの管理タスクにうても学びます。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

データベースの基本的なスキルを習得し、実際のプロジェクトや業務でデータベースを適切に操作できるようになることを目標とします。データベースに興味を持つ学生にとって非常に重要であり、実践的なスキルを身につける機会となります。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	データベースとは何か	授業の進め方について説明。データベースとは何かからSQLのインストールまで行う。	・SQLが正しくインストールできたことを確認 ・データベースについて確認する	
2	データベースの基本概念	DBMSとは？データベースの基本概念と役割について学んでいく。	・DBMSがなぜ必要か考えてみる ・身近にあるDBMSについて考えてみる	
3	SQL概要	データベース管理システムでデータを操作するための標準化された言語について学習する。	・データベースで出来ることを考えてみる ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
4	SQLの記述ルール	シンプルで直感的な文法を持ち、対話的にデータベースとやり取りをする。	・基本操作をイメージすること ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
5	テーブルの作成	SQLステートメントの使用法。データを整理し、保存するため、テーブルの作成方法と構文を学習する。	・テーブルについて理解しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
6	テーブルの削除	DROP TABLE文を使用。テーブル自体を削除するものであり、完全に消去される。慎重に行うこと	・データ削除の重要性について考える ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
7	テーブル変更	ALTER TABLE文を使用。既存のテーブルを柔軟に変更できることを演習で確認する。	・変更の必要性について考える ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
8	SELECTの基礎（1）	条件合った行を取り出す「選択」と、必要な列のみ取り出す「射影」について学習する。	・行と列概念について理解しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
9	SELECTの基礎（2）	数値型のデータに対して算術演算を行うことができる。演習にて演算結果を出力させる	・演算対象のデータ型について確認する ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
10	SELECTの基礎（3）	値が存在しない概念「NULL」について学ぶ。データが存在しないとは何か。空白文字とは異なるもの	・NULLの概念について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
11	データベースの演算	データベース管理における演算子とは。算術演算、比較演算、論理演算について学習する。	・演算の種類についてまとめてみる。 ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
12	テーブルの集約	テーブルの集約とは？GROUPBYを使用してできることを学習する。	・集約について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
13	グループ化（集約その2）	データベースのグループ化について。サンプルのテーブルを利用して学習する。	・前回の内容を復習しておくこと ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
14	ソート	ORDER BYを利用したテーブルの並べ替え（ソート）について学習する。	・前回の内容を復習しておくこと ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
15	データ更新	UPDATE文を利用したデータの更新について学習する。条件式などを指定した効率的な文法を理解する	・前回の内容を復習しておくこと ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
16	データ挿入	INSERT INTOを利用したテーブルの追加について学習する。単数・複数のレコードに対応できる	・前回の内容を復習しておくこと ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
17	データ削除	DELETEを利用したテーブルの削除について学習する。システムによって仕様が異なるので注意	・テーブル削除について予習しておく ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
18	トランザクション（1）	アトミックな処理について学習する。データの整合性と信頼性を保つために非常に重要な項目	・整合性について事前に調査しておくこと ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
19	トランザクション（2）	バックアップについて学習する。フル・差分・増分の違いについて理解する	・情報処理試験のバックアップを予習 ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
20	トランザクション（3）	バックアップにおけるチェックポイントについて学習する。情報処理試験と合わせて理解すること	・情報処理試験のバックアップを予習 ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	
21	トランザクション（4）	バックアップにおけるロールフォワードについて学習する。情報処理試験と合わせて理解すること	・情報処理試験のバックアップを予習 ・授業で学んだ内容の復習を行うこと	

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
情報基礎B	講義	48	4月～7月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
宮本 樹	大学・大学院時に行った研究開発経験や情報処理安全確保支援士(第025825号)で得た知識を活用した授業を実施	3	必修	IT科	

1. 科目の概要および目的

現在、誰もがが日常生活でITを活用している情報社会である。これから社会人にとって、業種・職種を問わずあらゆる企業や組織において、ITに関する基礎知識が必須となっている。ITの基本知識を学ぶ上で、IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)が主催するITパスポートの合格に必要な知識を修得することが現在のITの基本知識が体系的・網羅的に学習でき、非常に有効である。本科目では、ITパスポートの合格に必要なシステム開発を行うための知識として、データベース、ネットワーク、セキュリティ、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントに関する分野について学修し、修得することを目的とする。

2. 到達目標(授業を通じて身につく知識・技能・態度)

IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)が主催するITパスポートの合格に必要な「システムの利用と開発、マネジメント」分野の知識を修得することができる。
ITパスポートよりも高度な各情報処理技術者試験についての基本知識を修得することができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習(内容/時間) 事後学習(内容/時間)	AL
1	イントロダクション システム開発って何だろう?	本科目で学ぶ内容についての説明・勉強のやり方について説明する。 システム開発の順序について解説する。	事前: 事前にシラバスを読む	
2	ソフトウェア開発モデル	ソフトウェア開発で用いられる開発モデルについて解説する。特に、短期間で開発を行う「アジャイル」について解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
3	プロジェクトって何だろう?	プロジェクトマネジメントについて、作業範囲・スケジュール・サービスの品質・施設・設備を管理する手法を解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
4	監査って何だろう?	システム監査について、不祥事の防止や経営の適正化を行う取り組みについて解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
5	データの蓄積と管理を担う 「データベース」	システム開発において用いられるデータベースについて概要を解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
6	データベースの設計	データベースの設計として、E-R図について解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
7	DBMSが持つさまざまな機能	データベースマネジメントシステム(DBMS)の機能を解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
8	ネットワークの構成	ネットワークの構成に必要なものについて解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
9	プロトコル	通信の取り決めである「プロトコル」について、現在のインターネット使われているプロトコルについて解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
10	インターネットの仕組み	インターネットの仕組みについて解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
11	通信サービスの種類	通信サービスの種類について解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
12	脅威って何だろう?	セキュリティにおける脅威について解説し、脅威の発見から対策までを行う手法について解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
13	情報セキュリティ管理	情報セキュリティの管理について解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
14	情報を隠す技術	情報を隠す技術について解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
15	ユーザを認証する技術	ユーザ認証の技術について解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、事業で習った範囲の過去問題について取り組む(1h)	
16	科目試験	ここまで学習した内容について、科目試験を実施する。	事前: これまでの内容を復習する(0.5h) 事後: 分からなかった問題について復習する(1h)	

4. 教科書・参考文献

教科書	書籍名: ITパスポートをひとつひとつわかりやすく。(資格をひとつひとつシリーズ)、出版社: Gakken、ISBN-13: 978-4058020852、値段: 1,760円	参考文献	IPA情報処理推進機構(https://www.ipa.go.jp/) 各種情報処理技術者試験ドットコム
-----	--	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

事前に習得しておく必要のある科目: 特になし
履修に必要なスキル・予備知識: 分数や割合の数学の知識

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

課題やレポートについては随時授業内でフィードバックを行う。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

授業への主体的な取り組み（レポートへの取り組みや積極的な質問）：25%
小テストを用いた習熟度の確認：25%
試験の点数：50%

8. 備考

疑問点や不明瞭な点については質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
サーバ演習I	演習	40	9月～2月	1年次 3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
宮本 樹	大学・大学院時に行った研究開発経験や情報処理安全確保支援士(第025825号)で得た知識を活用した授業を実施	1	必修	SE1 ICTP3	

1. 科目の概要および目的

普段Webサイトを閲覧しようとするWebサイト側ではサーバが動いている。現在、サーバの多くはLinuxというOSを用いて動作している。そのため、WebサイトやWebサービスを提供しようとなるとLinuxの知識は必要不可欠です。本科目では、Linuxとして一番利用されているUbuntuの環境を構築し、構築した環境でCLI(Command Line Interface)の操作やLinuxの知識を学修し、演習を行い、修得することを目的とする。

2. 到達目標(授業を通じて身につく知識・技能・態度)

- Linuxとは何か理解できる。
- コマンドライン操作ができる。
- Webサーバやデータベースサーバを構築できる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習(内容/時間) 事後学習(内容/時間)	AL
1	Linux (Ubuntu) 環境のインストール	別のOSを仮想環境(仮想マシン)に構築するVirtualBoxを用いてLinux (Ubuntu) を自分の小コンピュータにインストールする。	事前: 事前にシラバスを読む	○
2	Linuxとは・Ubuntuとは	Linuxとは何か、Ubuntuとは何か、またその他のLinuxディストリビューションについて解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
3	Ubuntuデスクトップの利用	Ubuntuのデスクトップ環境を簡単に触ってみる。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
4	コマンドライン入門	文字ベースでコンピュータを操作するコマンドライン操作についての基礎的なことを学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
5	絶対パスと相対パス	コマンドライン操作で必要不可欠なパス(Path)について理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
6	コマンドライン上のテキストエディタ	コマンドライン上で使用できるテキストエディタとして、nanoやVim (Vi)、Emacsについて学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
7	シェルとは	人間とコンピュータ間で打ち込まれたコマンドを解釈し、コンピュータに伝えるシェルについて理解する。また、シェルのさまざまな機能について学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
8	シェル変数と環境変数	シェルが持つ特殊な変数やコンピュータの情報を保持している環境変数について学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
9	標準入力と標準出力	コマンドラインにおける入出力として、標準入力と標準出力、標準エラー出力について理解する。その応用のリダイレクトとパイプについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
10	sudoとroot権限	コンピュータの管理者として、あらゆる操作が許可されているrootユーザーやsudoについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
11	ユーザーとグループ	Linux OSでのユーザーやグループの扱いについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
12	パーミッションによるファイルの保護	ファイルやディレクトリを保護するための仕組みパーミッションについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
13	プロセスとジョブの管理	プログラムの実行単位としてプロセスとジョブについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
14	ソフトウェア管理	Ubuntuに新しいソフトウェアをインストールする際に用いられるパッケージ管理について理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
15	アーカイブファイルの管理	Linuxで用いられるアーカイブや圧縮について学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
16	サービスの管理	バックグラウンドで常に動き続けているプロセスをサービスやデーモンと呼ぶ。これらサービスやデーモンを管理する方法について学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
17	Apacheサーバの構築	Webサーバの一つであるApacheサーバを構築する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
18	Nginxサーバの構築	Webサーバの一つであるNginxサーバを構築する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
19	データベースサーバの構築	データベースサーバを構築する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
20	科目試験	ここまで学習した内容について、科目試験を実施する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○

4. 教科書・参考文献

教科書	書籍名：Linuxをマスターしたい人のための実践Ubuntu、出版社：秀和システム、ISBN-13：978-4798068251、値段：3,960円	参考文献	必要に応じた資料の配布
-----	--	------	-------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

事前に修得しておく必要のある科目：情報基礎A、情報基礎B

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

課題やレポートについては随時授業内でフィードバックを行う。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

授業への主体的な取り組み（レポートへの取り組みや積極的な質問）：20%
 課題の提出状況や課題の評価：40%
 試験の点数：40%

8. 備考

パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
 欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
サーバ演習Ⅱ		演習	32	4月～7月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
宮本 樹	大学・大学院時に行った研究開発経験や情報処理安全確保支援士(第025825号)で得た知識を活用した授業を実施	2	必修	SE2		

1. 科目の概要および目的

普段Webサイトを閲覧しようとするWebサイト側ではサーバが動いている。現在、サーバの多くはLinuxというOSを用いて動作している。そのため、WebサイトやWebサービスを提供しようとなるとLinuxの知識は必要不可欠です。本科目では、Linuxとして一番利用されているUbuntuの環境を構築し、構築した環境でCLI(Command Line Interface)の操作やLinuxの知識を学修し、演習を行い、修得することを目的とする。

2. 到達目標(授業を通じて身につく知識・技能・態度)

- Linuxとは何か理解できる。
- コマンドライン操作ができる。
- Webサーバやデータベースサーバを構築できる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習(内容/時間) 事後学習(内容/時間)	AL
1	Linux (Ubuntu) 環境のインストール	別のOSを仮想環境(仮想マシン)に構築するVirtualBoxを用いてLinux (Ubuntu)を自分の小コンピュータにインストールする。	事前: 事前にシラバスを読む	○
2	Linuxとは・Ubuntuとは	Linuxとは何か、Ubuntuとは何か、またその他のLinuxディストリビューションについて解説する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
3	Ubuntuデスクトップの利用	Ubuntuのデスクトップ環境を簡単に触ってみる。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
4	コマンドライン入門	文字ベースでコンピュータを操作するコマンドライン操作についての基礎的なことを学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
5	絶対パスと相対パス	コマンドライン操作で必要不可欠なパス(Path)について理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
6	コマンドライン上のテキストエディタ	コマンドライン上で使用できるテキストエディタとして、nanoやVim (Vi)、Emacsについて学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
7	シェルとは	人間とコンピュータ間で打ち込まれたコマンドを解釈し、コンピュータに伝えるシェルについて理解する。また、シェルのさまざまな機能について学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
8	標準入力と標準出力	コマンドラインにおける入出力として、標準入力と標準出力、標準エラー出力について理解する。その応用のリダイレクトとパイプについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
9	sudoとroot権限	コンピュータの管理者として、あらゆる操作が許可されているrootユーザーやsudoについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
10	ユーザーとグループ	Linux OSでのユーザーやグループの扱いについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
11	パーミッションによるファイルの保護	ファイルやディレクトリを保護するための仕組みパーミッションについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
12	プロセスとジョブの管理	プログラムの実行単位としてプロセスとジョブについて理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
13	ソフトウェア管理	Ubuntuに新しいソフトウェアをインストールする際に用いられるパッケージ管理について理解する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
14	アーカイブファイルの管理	Linuxで用いられるアーカイブや圧縮について学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
15	サービスの管理	バックグラウンドで常に動き続けているプロセスをサービスやデーモンと呼ぶ。これらサービスやデーモンを管理する方法について学ぶ。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
16	科目試験	ここまで学習した内容について、科目試験を実施する。	事前: 事前に教科書を読む(0.5h) 事後: 授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○

4. 教科書・参考文献

教科書	書籍名	参考文献	必要に応じた資料の配布
	書籍名: Linuxをマスターしたい人のための実践Ubuntu、出版社: 秀和システム、ISBN-13: 978-4798068251、値段: 3,960円		

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

事前に修得しておく必要のある科目: 情報基礎A、情報基礎B、サーバ演習I

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

課題やレポートについては随時授業内でフィードバックを行う。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

授業への主体的な取り組み（レポートへの取り組みや積極的な質問）：20%
課題の提出状況や課題の評価：40%
試験の点数：40%

8. 備考

パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
AIシステム概論		演習	32	4月～2月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
宮本 樹	大学・大学院時に行った研究開発経験や情報処理安全確保支援士（第025825号）で得た知識を活用した授業を実施	1	必修	ICTP3		

1. 科目の概要および目的

現在のシステムの主流はWebアプリケーションである。本科目では、Webアプリケーションのセキュリティについて、実習をしながら修得することを目的とする。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- Webアプリケーションを構築する上での脆弱性やその対策方法を身につけることができる。
- 脆弱性診断の知識を得ることができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	Webアプリケーションの脆弱性とは	脆弱性とはなにか、なぜ問題となるのか、なぜ脆弱性は生じてしまうのか、などを解説する。	事前：事前にシラバスを読む	
2	演習環境のセットアップ	本科目で脆弱性サンプルを動作させるために必要な演習環境をセットアップする。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
3	Webセキュリティの基礎	HTTPとセッション管理、受動的攻撃と同一オリジンポリシー、CORS（Cross-Origin Resource Sharing）について学ぶ。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
4	Webアプリケーションの機能と脆弱性の対応	脆弱性はどこで発生するのかを解説する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
5	入力処理とセキュリティ	Webアプリケーションの「入力」として、文字エンコーディングの検証や変換について学ぶ。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
6	表示処理に伴う問題 クロスサイト・スクリプティング	クロスサイト・スクリプティングについて、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因について学び、対策方法についても解説する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
7	SQLインジェクション	SQLインジェクションについて、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
8	「重要な処理」の際に混入する脆弱性	クロスサイト・リクエストフォージェリやクリックジャッキングについて、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
9	セッション管理の不備	セッションハイジャックについて、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因について学び、対策方法についても解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
10	リダイレクト処理にまつわる脆弱性	リダイレクト処理にまつわる脆弱性について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
11	クッキー出力にまつわる脆弱性	クッキー出力にまつわる脆弱性について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
12	メール送信の問題	メール送信にまつわる脆弱性について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
13	ファイルアクセスにまつわる問題	ファイルアクセスにまつわる脆弱性について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
14	OSコマンド呼び出しの際に発生する脆弱性	OSコマンド呼び出しの際に発生する脆弱性について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
15	ファイルアップロードにまつわる問題	ファイルアップロードにまつわる問題について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
16	インクルードにまつわる問題	インクルードにまつわる問題について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
17	構造化データの読み込みにまつわる問題	構造化データの読み込みにまつわる問題について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
18	共有資源やキャッシュに関する問題	共有資源やキャッシュに関する問題について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
19	Web API実装における脆弱性	Web API実装における脆弱性について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○
20	Web API実装における脆弱性	Web API実装における脆弱性について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む（0.5h） 事後：授業で習った事を復習し、理解する。（1h）	○

2 1	JavaScriptの問題	JavaScriptにまつわる問題について、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
2 2	認証	認証に関するセキュリティについて、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
2 3	アカウント管理	アカウント管理に関するセキュリティについて、攻撃手法や影響、脆弱性が生まれる原因、対策方法を解説・演習する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
2 4	認可	認可について述べ、認可不備の典型例について説明する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	
2 5	ログ出力	ログ出力の種類や要件、実装について解説する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	
2 6	文字コードとセキュリティ	文字コードとセキュリティについて学ぶ。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
2 7	脆弱性診断①	脆弱性診断について演習する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
2 8	脆弱性診断②	脆弱性診断について演習する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
2 9	Webサーバーへの攻撃経路と対策	Webサーバーへの攻撃経路と対策について学ぶ。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
3 0	成りすまし対策 盗聴・改ざん対策	成りすまし対策について学ぶ。 盗聴・改ざん対策について学ぶ。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
3 1	マルウェア対策	マルウェア対策について学ぶ。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○
3 2	まとめ	本科目で学んだ内容についてまとめる。	事後：授業で習った事を復習し、理解する。(1h)	○

4. 教科書・参考文献

教科書	書籍名：体系的に学ぶ 安全なWebアプリケーションの作り方 第2版 脆弱性が生まれる原理と対策の実践 出版社：SBクリエイティブ、ISBN-13：978-4797393163、値段：3,520円	参考文献	必要に応じた資料の配布 安全なウェブサイトの作り方 (https://www.ipa.go.jp/security/vuln/websecurity/about.html)
-----	--	------	---

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

事前に修得しておく必要のある科目：情報基礎B、Webプログラミング入門、WebプログラミングI、WebプログラミングII、サーバ演習I

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

課題やレポートについては随時授業内でフィードバックを行う。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

授業への主体的な取り組み（レポートへの取り組みや積極的な質問）：20%
小テストなどを用いた習熟度の確認：40%
課題の点数：40%

8. 備考

パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策III_応用（後期）	講義	80	9月～2月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
宮本 樹	大学・大学院時に行った研究開発経験や情報処理安全確保支援士（第025825号）で得た知識を活用した授業を実施	5	選択	IT科	

1. 科目の概要および目的

ITエンジニアとして、自分のIT技術を証明するためには資格試験に合格することが非常に有効である。そこで、IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）が提示した高度IT人材像に即したキャリアと求められるスキルを示した「共通キャリア・スキルフレームワーク」（レベル1～4）のレベル3に位置づけられている応用情報技術者試験の合格を目指す。合格には高度IT人材となるためにITを活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確率する必要がある。授業では、過去の問題を用いて模擬試験を行い、過去問題の解説を行う。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

春期（4月）、秋期（10月）に実施される応用情報技術者試験の合格に必要なITを活用した戦略の立案・システム企画・要件定義・設計・開発・運用に関し、共通キャリア・スキルフレームワークのレベル3相当の活動ができる知識・技能水準を修得できる。応用情報技術者試験の午後問題で自分が選ぶべき問題を選択することができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	午前試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
2	午前試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
3	午前試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
4	午後試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
5	午後試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
6	午後試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
7	10月試験直前対策	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
8	午前試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
9	午前試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
10	午前試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
11	午前試験対策⑦	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
12	午前試験対策⑧	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
13	午後試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
14	午後試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
15	午後試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
16	午後試験対策⑦	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
17	午後試験対策⑧	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
18	午後試験対策⑨	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
19	午後試験対策⑩	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
20	午後試験対策⑪	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	

4. 教科書・参考文献

教科書	必要に応じて配布する	参考文献	情報処理推進機構公開の過去問題 応用情報技術者試験ドットコム(https://www.ap-siken.com/)
-----	------------	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

事前に修得しておく必要のある科目：情報基礎A、情報基礎B
必要なスキル・予備知識：ITパスポートや基本情報技術者試験のITの基礎知識

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

応用情報技術者試験 午後問題の文章記述問題を集計し、集計結果をピックアップして、授業内でどこが良く、どこが悪いのか解説する。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

模擬試験の取り組み状況：40%
課題による習熟度の確認：40%
目標試験結果：20%

8. 備考

授業の記録（ノートを取るなどの行為）にパソコン使用を許可するが、授業外の利用を禁ずる。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
マーケティング		講義	20	8月～2月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
谷本 翔太	広告代理店3年、デザイン事務所4年で経験した知識を基に実践的授業	1	必修	ITE1		

1. 科目の概要および目的

企業が事業を継続させるために、様々なマーケティングを実施し、顧客満足度をあげるための施策を考える。新規事業を立ち上げる際も、マーケティングが必要不可欠である。この授業では、教科書を使ってマーケティングについて学習するとともに、実際に新しいアイデアやサービスを考え、発表するところまで実施する。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

マーケティングについて理解することで、アイデアを形にし、実現していく力を養う
ベネフィット、セグメンテーション、差別化、4Pの知識を習得する

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	オリエンテーション	担当教員の自己紹介、今後取り組んでいく授業内容について解説します。	事前(この授業ではillustratorを使って編集する作業があります。受講する学生は事前に復習しておく)	
2	マーケティングとは何か	マーケティングは何のために行うのか、どのようなものか概要を解説します。	事後(日々の生活の中にマーケティングはあります。気になった商品やサービスについて意識し、自分なりに考える癖をつける)	
3	課題①	文書化されたマーケティング知識を図にして理解してみます。	事前(自分なりに図でまとめる作業をするため、前回の授業の内容を復習しておく)	
4	ベネフィットとは	どのような商品、サービスを売るのが明確にし、マーケティング知識の中のベネフィットについて解説します。	事後(買い物など普段ものを購入する際、自分は何故この商品を選んだのか、考える癖をつける)	
5	課題②	身近にある商品やサービスについて、皆さんがどのようなベネフィットを感じているかまとめてみます。	事前(日頃利用する商品やサービスのベネフィットについて事前に考えておく)	
6	セグメンテーションとは	誰が商品、サービスを購入するのかを明確にし、マーケティング知識の中のセグメンテーションについて解説します。	事後(きのこの山、たけのこの里の2商品がよく派閥争いをしている。両商品のセグメンテーションについて考えてみる)	
7	課題③	身近にある商品やサービスを取り上げ、誰が購入しているのかについて分析し、まとめてみます。	事前(日頃利用する商品やサービスをなぜ自分は利用するのかについて事前に考えておく)	
8	差別化とは	自身の商品、サービスでなければならない理由を考え、マーケティング知識の中の差別化についてを解説します。	事後(買い物など普段ものを購入する際、類似商品間でどちらを買うか考える。その際、何が決めてとなり購入しているかについて考える)	
9	課題④	身近にある商品、サービスで同等のものをお題とし、両者の違いについてを分析し各々がどのような差別化をしているかまとめてみます。	事前(日頃利用する商品やサービスをなぜ自分は利用するのかについて事前に考えておく)	
10	4Pとは	差別化までできた商品、サービスをどのように届けるかを考える際に必要なマーケティング知識の4Pについて解説します。	事後(買い物など普段ものを購入する際、その商品の情報をどこで見聞きしているか、どこで買うことができるかについて考える)	
11	課題⑤	身近な商品、サービスをお題にどのような4P戦略をとっているかを分析し、まとめてみます。	事前(日頃利用する商品やサービスを見聞きする方法、購入する場所、購入する際に支払う対価について考えておく)	
12	中間テスト	マーケティング知識の中で出てくる重要な単語について、言葉の意味についてを回答するテストを実施します。	事前(マーケティングに必要な知識の復習をしてテストに臨む)	
13	実践①	和歌山の特産品(梅、ミカンなど)をお題にして、実際にマーケティングを実施してみます。	事前(各自一人ひとりで実践的にマーケティングを行っていく。これまでの授業の内容をしっかりと復習しておくこと)	
14	実践②	授業で勉強した内容を基にマーケティングを考えます。	事後(わからないことや難しいところは教員に確認することを怠らない)	
15	実践③	分かりやすく図などを使いながらまとめていきます。	事後(まとめた内容がわかりやすいか、内容に破綻がおきていないかをチェックしておく)	
16	発表	各自考えたマーケティング手法を発表します。	事前(発表練習をし、当日スムーズに発表できるようにしておく)	
17	実践④	VtuberのXフォロワー、YOUTUBEの登録者を増やすための施策をマーケティングを活用して考えてみます。	事前(Vtuberとは何か、どのようなコンテンツでどのような人がセグメントになるのかなどについて事前に調べて考えておく)	
18	実践⑤	授業で勉強した内容を基にマーケティングを考えます。	事後(わからないことや難しいところは教員に確認することを怠らない)	
19	実践⑥	分かりやすく図などを使いながらまとめていきます。	事後(まとめた内容がわかりやすいか、内容に破綻がおきていないかをチェックしておく)	
20	発表	各自考えたマーケティング手法を発表します。	事前(発表練習をし、当日スムーズに発表できるようにしておく)	

4. 教科書・参考文献

教科書	ドリルを売るには穴を売れ	参考文献	必要に応じた資料の配布
-----	--------------	------	-------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

授業内でillustratorを使用することがあります。事前に復習をしっかりとしておいてください。

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出された課題等について論評・添削しますので課題等忘れずに提出してください。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

授業態度:40%(出席を前提とする参加・発言等、主体的学習態度)、課題提出:60%
主体的に学習することを心掛けてください

8. 備考

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策I_応用（後期）		講義	80	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
宮本 樹	大学・大学院時に行った研究開発経験や情報処理安全確保支援士（第025825号）で得た知識を活用した授業を実施	5	選択	IT科		

1. 科目の概要および目的

ITエンジニアとして、自分のIT技術を証明するためには資格試験に合格することが非常に有効である。そこで、IPA（独立合成法人 情報処理推進機構）が提示した高度IT人材像に即したキャリアと求められるスキルを示した「共通キャリア・スキルフレームワーク」（レベル1～4）のレベル3に位置づけられている応用情報技術者試験の合格を目指す。合格には高度IT人材となるためにITを活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確率する必要がある。授業では、過去の問題を用いて模擬試験を行い、過去問題の解説を行う。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

春期（4月）、秋期（10月）に実施される応用情報技術者試験の合格に必要なITを活用した戦略の立案・システム企画・要件定義・設計・開発・運用に関し、共通キャリア・スキルフレームワークのレベル3相当の活動ができる知識・技能水準を修得できる。応用情報技術者試験の午後問題で自分が選ぶべき問題を選択することができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	午前試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
2	午前試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
3	午前試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
4	午後試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
5	午後試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
6	午後試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
7	10月試験直前対策	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
8	午前試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
9	午前試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
10	午前試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
11	午前試験対策⑦	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
12	午前試験対策⑧	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
13	午後試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
14	午後試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
15	午後試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
16	午後試験対策⑦	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
17	午後試験対策⑧	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
18	午後試験対策⑨	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
19	午後試験対策⑩	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
20	午後試験対策⑪	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	

4. 教科書・参考文献

教科書	必要に応じて配布する	参考文献	情報処理推進機構公開の過去問題 応用情報技術者試験ドットコム (https://www.ap-siken.com/)
-----	------------	------	---

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

事前に修得しておく必要のある科目：情報基礎A、情報基礎B
 必要なスキル・予備知識：ITパスポートや基本情報技術者試験のITの基礎知識

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

応用情報技術者試験 午後問題の文章記述問題を集計し、集計結果をピックアップして、授業内でどこが良く、どこが悪いのか解説する。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

模擬試験の取り組み状況：40%
 課題による習熟度の確認：40%
 目標試験結果：20%

8. 備考

授業の記録（ノートを取るなどの行為）にパソコン使用を許可するが、授業外の利用を禁ずる。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策II_応用（前期）		講義	96	4月～7月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
宮本 樹	大学・大学院時に行った研究開発経験や情報処理安全確保支援士（第025825号）で得た知識を活用した授業を実施	6	必修	SE2 ITE2 CG2		

1. 科目の概要および目的

ITエンジニアとして、自分のIT技術を証明するためには資格試験に合格することが非常に有効である。そこで、IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）が提示した高度IT人材像に即したキャリアと求められるスキルを示した「共通キャリア・スキルフレームワーク」（レベル1～4）のレベル3に位置づけられている応用情報技術者試験の合格を目指す。合格には高度IT人材となるためにITを活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確率する必要がある。授業では、過去の問題を用いて模擬試験を行い、過去問題の解説を行う。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

春期（4月）、秋期（10月）に実施される応用情報技術者試験の合格に必要なITを活用した戦略の立案・システム企画・要件定義・設計・開発・運用に関し、共通キャリア・スキルフレームワークのレベル3相当の活動ができる知識・技能水準を修得できる。応用情報技術者試験の午後問題で自分が選ぶべき問題を選択することができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	4月試験直前対策	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
2	午前試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
3	午前試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
4	午前試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
5	午前試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
6	午前試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
7	午前試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
8	午後試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
9	午後試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
10	午後試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
11	午後試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
12	午後試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
13	午後試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
14	午後試験対策⑦	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
15	午後試験対策⑧	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
16	午後試験対策⑨	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	

4. 教科書・参考文献

教科書	必要に応じて配布する	参考文献
		情報処理推進機構公開の過去問題 応用情報技術者試験ドットコム (https://www.ap-siken.com/)

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

事前に修得しておく必要のある科目：情報基礎A、情報基礎B
必要なスキル・予備知識：ITパスポートや基本情報技術者試験のITの基礎知識

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

応用情報技術者試験 午後問題の文章記述問題を集計し、集計結果をピックアップして、授業内でどこが良く、どこが悪いのか解説する。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

模擬試験の取り組み状況：40%
課題による習熟度の確認：40%
目標試験結果：20%

8. 備考

授業の記録（ノートを取るなどの行為）にパソコン使用を許可するが、授業外の利用を禁ずる。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策II_応用（後期）		講義	80	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
宮本 樹	大学・大学院時に行った研究開発経験や情報処理安全確保支援士（第025825号）で得た知識を活用した授業を実施	5	必修	SE2 ITE2 CG2		

1. 科目の概要および目的

ITエンジニアとして、自分のIT技術を証明するためには資格試験に合格することが非常に有効である。そこで、IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）が提示した高度IT人材像に即したキャリアと求められるスキルを示した「共通キャリア・スキルフレームワーク」（レベル1～4）のレベル3に位置づけられている応用情報技術者試験の合格を目指す。合格には高度IT人材となるためにITを活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確率する必要がある。授業では、過去の問題を用いて模擬試験を行い、過去問題の解説を行う。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

春期（4月）、秋期（10月）に実施される応用情報技術者試験の合格に必要なITを活用した戦略の立案・システム企画・要件定義・設計・開発・運用に関し、共通キャリア・スキルフレームワークのレベル3相当の活動ができる知識・技能水準を修得できる。応用情報技術者試験の午後問題で自分が選ぶべき問題を選択することができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	午前試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
2	午前試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
3	午前試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
4	午後試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
5	午後試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
6	午後試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
7	10月試験直前対策	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
8	午前試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
9	午前試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
10	午前試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
11	午前試験対策⑦	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
12	午前試験対策⑧	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
13	午後試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
14	午後試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
15	午後試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
16	午後試験対策⑦	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
17	午後試験対策⑧	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
18	午後試験対策⑨	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
19	午後試験対策⑩	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
20	午後試験対策⑪	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	

4. 教科書・参考文献

教科書	必要に応じて配布する	参考文献	情報処理推進機構公開の過去問題 応用情報技術者試験ドットコム (https://www.ap-siken.com/)
-----	------------	------	---

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

事前に修得しておく必要のある科目：情報基礎A、情報基礎B
 必要なスキル・予備知識：ITパスポートや基本情報技術者試験のITの基礎知識

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

応用情報技術者試験 午後問題の文章記述問題を集計し、集計結果をピックアップして、授業内でどこが良く、どこが悪いのか解説する。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

模擬試験の取り組み状況：40%
 課題による習熟度の確認：40%
 目標試験結果：20%

8. 備考

授業の記録（ノートを取るなどの行為）にパソコン使用を許可するが、授業外の利用を禁ずる。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
資格試験対策III_応用（前期）		講義	96	4月～7月	3年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
宮本 樹	大学・大学院時に行った研究開発経験や情報処理安全確保支援士（第025825号）で得た知識を活用した授業を実施	6	必修	ICTP3		

1. 科目の概要および目的

ITエンジニアとして、自分のIT技術を証明するためには資格試験に合格することが非常に有効である。そこで、IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）が提示した高度IT人材像に即したキャリアと求められるスキルを示した「共通キャリア・スキルフレームワーク」（レベル1～4）のレベル3に位置づけられている応用情報技術者試験の合格を目指す。合格には高度IT人材となるためにITを活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確率する必要がある。授業では、過去の問題を用いて模擬試験を行い、過去問題の解説を行う。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

春期（4月）、秋期（10月）に実施される応用情報技術者試験の合格に必要なITを活用した戦略の立案・システム企画・要件定義・設計・開発・運用に関し、共通キャリア・スキルフレームワークのレベル3相当の活動ができる知識・技能水準を修得できる。応用情報技術者試験の午後問題で自分が選ぶべき問題を選択することができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	4月試験直前対策	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
2	午前試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
3	午前試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
4	午前試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
5	午前試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
6	午前試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
7	午前試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
8	午後試験対策①	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
9	午後試験対策②	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
10	午後試験対策③	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
11	午後試験対策④	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
12	午後試験対策⑤	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
13	午後試験対策⑥	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
14	午後試験対策⑦	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
15	午後試験対策⑧	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	
16	午後試験対策⑨	過去問題を用いて模擬試験を行い、問題の解説を行う。	事前：定期的にIT知識をする。 事後：模擬試験の自己採点を行い、間違えた問題やわからなかった問題の復習を行うこと。	

4. 教科書・参考文献

教科書	必要に応じて配布する	参考文献	情報処理推進機構公開の過去問題 応用情報技術者試験ドットコム (https://www.ap-siken.com/)
-----	------------	------	---

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

事前に修得しておく必要のある科目：情報基礎A、情報基礎B
必要なスキル・予備知識：ITパスポートや基本情報技術者試験のITの基礎知識

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

応用情報技術者試験 午後問題の文章記述問題を集計し、集計結果をピックアップして、授業内でどこが良く、どこが悪いのか解説する。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

模擬試験の取り組み状況：40%
課題による習熟度の確認：40%
目標試験結果：20%

8. 備考

授業の記録（ノートを取るなどの行為）にパソコン使用を許可するが、授業外の利用を禁ずる。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
C#応用		演習	32	4月～7月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにプログラミング言語C#を授業する。	1	必修	SE2 ICTP2		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、プログラミング言語C#を使ってWindowsフォームアプリケーションを作成できるスキルを身につけることである。この目的を達成するために、Windowsフォームアプリケーションの作成方法を中心に解説と演習をおこなう。
プログラミング言語C#はシステム開発において幅広く使用されるプログラミング言語であり、オブジェクト指向プログラミング言語の学習としても適している。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ①Windowsフォームアプリケーションが動作する環境、「.NET」について説明することができる。
- ②Windowsフォームアプリケーションを作成することができる。
- ③WindowsフォームアプリケーションからCSVファイルの読み書きができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	イントロダクション	授業の進行・開発環境等についての説明 Teamsの使用法と留意点についての説明	事前：事前にシラバスを読む(0.5h)	
2	プログラムはなぜ動くのか、 オブジェクト指向（復習）	プログラムはなぜ動くのか、オブジェクト指向（復習）について解説をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
3	抽象クラス、インターフェイス	抽象クラス、インターフェイスについて解説をおこなう。 これらを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
4	「付箋メモ」の作成①	演習として「付箋メモ」の作成をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
5	「付箋メモ」の作成②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
6	「今日の占い」の作成①	演習として「今日の占い」の作成をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
7	「今日の占い」の作成②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
8	デバッグモードで動作を確認する	デバッグモードで動作を確認する方法について解説をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
9	中間テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：これまでに学んだことの復習(2h)	
10	「間違い探しゲーム」の作成①	演習として「間違い探しゲーム」の作成をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
11	「間違い探しゲーム」の作成②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
12	「CSVの読み書きアプリ」の作成①	演習として「CSVの読み書きアプリ」の作成をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
13	「CSVの読み書きアプリ」の作成②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
14	データベースとの連携	演習としてデータベースとの連携をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
15	期末テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：これまでに学んだことの復習(2h)	
16	まとめ	テスト結果のフィードバックや補足すべき項目の解説をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○

4. 教科書・参考文献

教科書	参考文献
作って覚えるVisual C# 2022	必要に応じて資料を配布する

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

C#

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

テストにおいて、間違いが多かった設問などは全体にフィードバックする。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小テスト（第2週目以降の各週に実施）	40%
・中間テスト	20%
・期末テスト	20%

8. 備考

グループワークや発表など適時おこなう。
パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
Ruby (前期)		演習	32	4月～7月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにプログラミング言語Rubyを授業する。	1	必修	SE2		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、プログラミング言語Rubyの概念や基本的な構文を理解し、プログラムを作成できるスキルを身につけることにある。この目的を達成するためにデータ型、条件分岐、繰り返し、配列、文字列操作、メソッドなどを中心に講義をおこなう。
Rubyはオブジェクト指向プログラミング言語であり、他の言語と比較すると自由度が高く、簡潔にプログラムを記述できる特徴がある。

2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)

- ①プログラミング言語Rubyの演算子を理解し、これらを使ったプログラムを書くことができる。
- ②条件分岐や繰り返しといった基本的な構文を理解し、これらを使ったプログラムを書くことができる。
- ③文字列操作について理解し、これを使ったプログラムを書くことができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	イントロダクション	授業の進行・開発環境についての説明 Teamsの使用法と留意点についての説明	事後：Ruby・VSCodeのインストール(2h)	
2	変数	変数と変数名の書き方について解説する。 変数を使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
3	データ型	データ型について解説する。 整数型や浮動小数点型、文字列型などの変数を使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
4	配列①	配列について解説する。 配列を使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
5	配列②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
6	ハッシュ	ハッシュについて解説する。 ハッシュを使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
7	算術演算子、代入演算子、比較演算子	算術演算子、代入演算子、比較演算子について解説する。 これらを使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
8	論理演算子、ビット演算子、演算子の優先順位と結合則	論理演算子、ビット演算子、演算子の優先順位と結合則について解説する。 これらを使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
9	条件分岐	条件分岐について解説する。 if文、if～else文、if～elsif～else文を使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
10	中間テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：ここまでの学習内容を復習する(2h)	
11	繰り返し処理	繰り返し処理について解説する。 while文、until文、for文などを使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
12	繰り返し処理(専用メソッド)、ループの制御	繰り返し処理について解説する。 eachメソッド、timesメソッド、loopメソッドなどを使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
13	文字列の操作①	文字列操作について解説する。 基本的な文字列操作のプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
14	文字列の操作②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
15	期末テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：ここまでの学習内容を復習する(2h) 事後：期末テストで解けなかった設問の調べ学習(1h)	
16	まとめ	テスト結果のフィードバックや補足すべき項目の解説をおこなう。		○

4. 教科書・参考文献

教科書	参考文献
独習Ruby	必要に応じて資料を配布する

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

C#

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

テストにおいて、間違いが多かった設問などは全体にフィードバックする。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小課題（第2週目以降の各週に実施）	40%
・中間テスト	20%
・期末テスト	20%

8. 備考
 グループワークや発表など適時おこなう。
 パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
 欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

10. オフィスアワー

DP1	DP2	DP3

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名	授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
Ruby (後期)	演習	40	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス	
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにプログラミング言語Rubyを授業する。	1	必修	SE2	

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、①プログラミング言語Rubyを用いてオブジェクト指向プログラミングのスキルを身につけること、②Ruby特有の記法を理解しプログラムを作成すること③正規表現を理解することにある。この目的を達成するためにクラスの定義とインスタンスの生成、継承、カプセル化、ポリモーフィズム、Ruby特有の記法を中心に講義をおこなう。
Rubyはオブジェクト指向プログラミング言語であり、他の言語と比較すると自由度が高く、簡潔にプログラムを記述できる特徴がある。

2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)

- ①オブジェクト指向の三大要素 (継承・カプセル化・ポリモーフィズム) を用いたRubyプログラムを書くことができる。
- ②Ruby特有の記法をつかってプログラムを書くことができる。
- ③基本的な正規表現を書くことができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	イントロダクション	授業の進行・開発環境についての説明 Teamsの使用方法と留意点についての説明	事前: Ruby (前期) の復習 (1h)	
2	例外処理	例外処理について解説する。 例外処理を使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
3	日付/時刻の操作	日付/時刻の操作について解説する。 日付/時刻の操作を使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
4	正規表現	正規表現について解説する。 正規表現の演習およびプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
5	メソッド	メソッドについて解説する。 メソッドの定義と呼び出しを使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
6	変数の有効範囲 (スコープ)	変数の有効範囲 (スコープ) について解説する。 変数の有効範囲 (スコープ) を意識したプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
7	引数のさまざまな記法、メソッド呼び出しと戻り値	引数のさまざまな記法、メソッド呼び出しと戻り値について解説する。 これらを使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
8	ブロック付きメソッド	ブロック付きメソッドについて解説する。 ブロック付きメソッドを使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
9	中間テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前: ここまでの学習内容を復習する (2h)	
10	ファイル操作	ファイル操作について解説する。 ファイル操作を使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
11	オブジェクト指向プログラミングの基本	オブジェクト指向プログラミングの基本について解説する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
12	クラスの定義	クラスの定義について解説する。 クラスの定義を使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
13	継承	継承について解説する。 継承を使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
14	カプセル化、ポリモーフィズム	カプセル化、ポリモーフィズムについて解説する。 カプセル化、ポリモーフィズムを使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
15	モジュール	モジュールについて解説する。 モジュールを使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
16	Objectクラス	Objectクラスについて解説する。 Objectクラスを使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
17	演算子の再定義	演算子の再定義について解説する。 演算子の再定義を使ったプログラムを作成する。	事前: 事前に教科書を読む (0.5h) 事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
18	演習	演習として、テキストファイルを扱うアプリを開発する。	事後: 授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
19	期末テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前: ここまでの学習内容を復習する (2h)	
20	まとめ	テスト結果のフィードバックや補足すべき項目の解説をおこなう。		○

4. 教科書・参考文献

教科書	独習Ruby	参考文献	必要に応じて資料を配布する
-----	--------	------	---------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

Ruby (前期)

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

テストにおいて、間違いが多かった設問などは全体にフィードバックする。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小テスト (第2週目以降の各週に実施)	40%
・中間テスト	20%
・期末テスト	20%

8. 備考

グループワークや発表など適時おこなう。
 パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
 欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
ゲームプログラミング I		演習	60	9月～2月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにゲームプログラミングを授業する。	2	必修	ITE1 ICTP1		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、Unityを用いたWindowsゲームの開発において必要なスキルを身につけることにある。この目的を達成するためにゲームデザイン、ゲームオブジェクト、UI、効果音の鳴らし方、当たり判定、レベルデザインを中心に講義をおこなう。プログラミングにはプログラミング言語C#を使用する。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- Unityの基本的な操作方法を身につけることができる。
- 簡単な2D・3Dゲームを作成することができる。
- レベルデザインの考え方をプログラムに実装することができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	イントロダクション、ゲームを作るのに必要なもの	授業の進行・開発環境についての説明 Teamsの使用法と留意点についての説明	事前：事前にシラバスを読む(0.5h) 事後：Unityのインストール(1h)	
2	シーンにオブジェクトを配置しよう、Unityの画面構成を知ろう	オブジェクトの配置、Unityの画面構成について解説をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
3	占いルーレット①	演習として「占いルーレット」を制作する。 キーワード：プロジェクト、シーン、オブジェクト	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
4	占いルーレット②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
5	クラスを作ってみよう、Vector型を使ってみよう	クラス、Vector型について解説をおこなう。これらを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
6	寸止めゲーム①	演習として「寸止めゲーム」を制作する。 キーワード：UI、効果音	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
7	寸止めゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
8	寸止めゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
9	上から降ってくる矢を避けるゲーム①	演習として「上から降ってくる矢を避けるゲーム」を制作する。 キーワード：当たり判定、Prefab	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
10	上から降ってくる矢を避けるゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
11	上から降ってくる矢を避けるゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
12	雲を渡って頂上のゴールを目指すゲーム①	演習として「雲を渡って頂上のゴールを目指すゲーム」を制作する。 キーワード：シーンの遷移、コライダ、カメラの追従	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
13	雲を渡って頂上のゴールを目指すゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
14	雲を渡って頂上のゴールを目指すゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
15	イガグリを飛ばすゲーム①	演習として「イガグリを飛ばすゲーム」を制作する。 キーワード：Terrain、エフェクト	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
16	イガグリを飛ばすゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
17	イガグリを飛ばすゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
18	落下してくるりんごをキャッチするゲーム①	演習として「落下してくるりんごをキャッチするゲーム」を制作する。 キーワード：UI、効果音、レベルデザイン	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
19	落下してくるりんごをキャッチするゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
20	落下してくるりんごをキャッチするゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○

4. 教科書・参考文献

教科書	Unityの教科書 Unity 2023完全対応版	参考文献	必要に応じて資料を配布する
-----	---------------------------	------	---------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

C#入門

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出された演習課題について、授業でいくつか実行しフィードバックを行う。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小テスト（第2週目以降の各週に実施）	40%
・提出課題	40%

8. 備考

パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
C#入門		演習	32	4月～7月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにプログラミング言語C#を授業する。	1	必修	IT科		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、プログラミング言語C#の概念や基本的な構文を理解し、プログラムを作成できるスキルを身につけることにある。この目的を達成するためにデータ型、条件分岐、繰り返し、配列、メソッドなどを中心に講義をおこなう。
プログラミング言語C#はシステム開発において幅広く使用されるプログラミング言語であり、オブジェクト指向プログラミング言語の学習としても適している。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ①プログラミング言語C#の基本的なデータの型を理解し、使い分けることができる。
- ②条件分岐や繰り返しなどの基本的な構文を理解し、これらを使ったプログラムを書くことができる。
- ③メソッドについて理解し、これを使ったプログラムを書くことができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	イントロダクション	授業の進行・開発環境についての説明 Teamsの使用法と留意点についての説明	事後：Visual Studioのインストール(2h)	
2	プログラムとC#	C#プログラムがどのような環境と手順で実行されるのかを解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h)	○
3	変数と演算子①	データ型、変数名の書き方、演算子、定数について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
4	変数と演算子②	基本的なデータ型、演算子を使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
5	条件分岐①	条件分岐について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
6	条件分岐②	if文、if～else文、if～else if～else文を使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
7	繰り返し①	繰り返しについて解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
8	繰り返し②	for文、while文、breakを使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
9	中間テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：これまでに学んだことの復習(2h)	
10	配列①	配列について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
11	配列②	配列の宣言方法、配列の初期化、foreach文を使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
12	値型と参照型	値型と参照型の違いについて理解し、留意すべきことを解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
13	メソッド①	メソッドについて解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
14	メソッド②	メソッド、引数、戻り値を使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
15	期末テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：これまでに学んだことの復習(2h)	
16	オブジェクト指向とは	オブジェクト指向の概要について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：教科書を読み復習しておくこと(0.5h)	

4. 教科書・参考文献

教科書	確かな力が身につく C#「超」入門 第3版	参考文献	必要に応じて資料を配布する
-----	-----------------------	------	---------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

特になし

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

テストにおいて、間違いが多かった設問などは全体にフィードバックする。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小テスト（第2週目以降の各週に実施）	40%
・中間テスト	20%
・期末テスト	20%

8. 備考

グループワークや発表など適時おこなう。
パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
C#基礎		演習	60	9月～2月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにプログラミング言語C#を授業する。	2	選択	SE1 ICTP1		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、プログラミング言語C#の基本的なプログラムを作成できるスキルを身につけることにある。この目的を達成するために、オブジェクト指向、コレクション、LINQ、Windowsアプリの制作を中心に講義をおこなう。プログラミング言語C#はシステム開発において幅広く使用されるプログラミング言語であり、オブジェクト指向プログラミング言語の学習としても適している。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ①オブジェクト指向を理解し、C#プログラムを作成することができる。
- ②LINQを使ってデータを抽出、更新するプログラムを作成することができる。
- ③ボタンやテキストボックス、リストボックスなどを使用してWindowsアプリを作成することができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	イントロダクション	授業の進行・開発環境についての説明 Teamsの使用法と留意点についての説明	事前：事前にシラバスを読む(0.5h)	
2	オブジェクト指向	オブジェクト指向について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：教科書を読んで復習する(1h)	○
3	クラスとインスタンス	クラスとインスタンスについて解説する。 クラスを定義しインスタンスを生成するプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
4	カプセル化	カプセル化について解説する。 アクセス修飾子を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
5	継承①	継承について解説する。 継承を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
6	継承②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
7	ポリモーフィズム	ポリモーフィズムについて解説する。 ポリモーフィズムを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
8	中間テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：ここまでの学習内容を復習する(2h)	
9	コレクション	コレクションについて解説する。 コレクション（List型、Dictionary型）を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
10	LINQとラムダ式	LINQとラムダ式について解説する。 LINQとラムダ式を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
11	名前空間、Windowsアプリケーションの概要	名前空間、Windowsアプリケーションの概要について解説する。 名前空間を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
12	Windowsアプリ制作～ハローワールド～①	Windowsアプリを作成する。 フォーム上にHello, World!!を表示するプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
13	Windowsアプリ制作～ハローワールド～②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
14	Windowsアプリ制作～消費税計算機～①	Windowsアプリを作成する。 入力された税抜価格をもとに税込価格をフォーム上に表示させるプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
15	Windowsアプリ制作～消費税計算機～②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
16	Windowsアプリ制作～電話帳アプリ～①	Windowsアプリを作成する。 選択した人の電話番号をフォーム上に表示させるプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
17	Windowsアプリ制作～電話帳アプリ～②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
18	Windowsアプリ制作～天気予報アプリ～	Windowsアプリを作成する。 Webサイト上に公開されている情報を取得し、フォーム上に表示させるプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
19	期末テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：ここまでの学習内容を復習する(2h)	
20	まとめ	テスト結果のフィードバックや補足すべき項目の解説をおこなう。	事前：期末テストで解けなかった設問について再度取り組んでおく。	○

4. 教科書・参考文献

教科書	確かな力が身につく C#「超」入門 第3版	参考文献	必要に応じて資料を配布する
-----	-----------------------	------	---------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

C#入門

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

テストにおいて、間違いが多かった設問などは全体にフィードバックする。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小課題（第2週目以降の各週に実施）	40%
・中間テスト	20%
・期末テスト	20%

8. 備考

グループワークや発表など適時おこなう。
 パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
 欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
C#入門		演習	32	4月～7月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにプログラミング言語C#を授業する。	1	必修	IT科		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、プログラミング言語C#の概念や基本的な構文を理解し、プログラムを作成できるスキルを身につけることにある。この目的を達成するためにデータ型、条件分岐、繰り返し、配列、メソッドなどを中心に講義をおこなう。
プログラミング言語C#はシステム開発において幅広く使用されるプログラミング言語であり、オブジェクト指向プログラミング言語の学習としても適している。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ①プログラミング言語C#の基本的なデータの型を理解し、使い分けることができる。
- ②条件分岐や繰り返しなどの基本的な構文を理解し、これらを使ったプログラムを書くことができる。
- ③メソッドについて理解し、これを使ったプログラムを書くことができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	イントロダクション	授業の進行・開発環境についての説明 Teamsの使用方法と留意点についての説明	事後：Visual Studioのインストール(2h)	
2	プログラムとC#	C#プログラムがどのような環境と手順で実行されるのかを解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h)	○
3	変数と演算子①	データ型、変数名の書き方、演算子、定数について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
4	変数と演算子②	基本的なデータ型、演算子を使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
5	条件分岐①	条件分岐について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
6	条件分岐②	if文、if～else文、if～else if～else文を使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
7	繰り返し①	繰り返しについて解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
8	繰り返し②	for文、while文、breakを使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
9	中間テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：これまでに学んだことの復習(2h)	
10	配列①	配列について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
11	配列②	配列の宣言方法、配列の初期化、foreach文を使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
12	値型と参照型	値型と参照型の違いについて理解し、留意すべきことを解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
13	メソッド①	メソッドについて解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
14	メソッド②	メソッド、引数、戻り値を使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
15	期末テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：これまでに学んだことの復習(2h)	
16	オブジェクト指向とは	オブジェクト指向の概要について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：教科書を読み復習しておくこと(0.5h)	

4. 教科書・参考文献

教科書	確かな力が身につく C#「超」入門 第3版	参考文献	必要に応じて資料を配布する
-----	-----------------------	------	---------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

特になし

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

テストにおいて、間違いが多かった設問などは全体にフィードバックする。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小テスト（第2週目以降の各週に実施）	40%
・中間テスト	20%
・期末テスト	20%

8. 備考

グループワークや発表など適時おこなう。
パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
C#応用		演習	32	4月～7月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにプログラミング言語C#を授業する。	1	選択	SE2 ICTP2		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、プログラミング言語C#を使ってWindowsフォームアプリケーションを作成できるスキルを身につけることである。この目的を達成するために、Windowsフォームアプリケーションの作成方法を中心に解説と演習をおこなう。
プログラミング言語C#はシステム開発において幅広く使用されるプログラミング言語であり、オブジェクト指向プログラミング言語の学習としても適している。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- Windowsフォームアプリケーションが動作する環境、「.NET」について説明することができる。
- Windowsフォームアプリケーションを作成することができる。
- WindowsフォームアプリケーションからCSVファイルの読み書きができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	イントロダクション	授業の進行・開発環境等についての説明 Teamsの使用方法和留意点についての説明	事前：事前にシラバスを読む(0.5h)	
2	プログラムはなぜ動くのか、オブジェクト指向（復習）	プログラムはなぜ動くのか、オブジェクト指向（復習）について解説をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
3	抽象クラス、インターフェイス	抽象クラス、インターフェイスについて解説をおこなう。 これらを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
4	「付箋メモ」の作成①	演習として「付箋メモ」の作成をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
5	「付箋メモ」の作成②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
6	「今日の占い」の作成①	演習として「今日の占い」の作成をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
7	「今日の占い」の作成②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
8	デバッグモードで動作を確認する	デバッグモードで動作を確認する方法について解説をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
9	中間テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：これまでに学んだことの復習(2h)	
10	「間違い探しゲーム」の作成①	演習として「間違い探しゲーム」の作成をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
11	「間違い探しゲーム」の作成②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
12	「CSVの読み書きアプリ」の作成①	演習として「CSVの読み書きアプリ」の作成をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
13	「CSVの読み書きアプリ」の作成②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
14	データベースとの連携	演習としてデータベースとの連携をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
15	期末テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：これまでに学んだことの復習(2h)	
16	まとめ	テスト結果のフィードバックや補足すべき項目の解説をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○

4. 教科書・参考文献

教科書	参考文献
作って覚えるVisual C# 2022	必要に応じて資料を配布する

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

C#

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

テストにおいて、間違いが多かった設問などは全体にフィードバックする。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小テスト（第2週目以降の各週に実施）	40%
・中間テスト	20%
・期末テスト	20%

8. 備考

グループワークや発表など適時おこなう。
パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
Ruby (前期)		演習	32	4月～7月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにプログラミング言語Rubyを授業する。	1	必修	SE2		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、プログラミング言語Rubyの概念や基本的な構文を理解し、プログラムを作成できるスキルを身につけることにある。この目的を達成するためにデータ型、条件分岐、繰り返し、配列、文字列操作、メソッドなどを中心に講義をおこなう。
Rubyはオブジェクト指向プログラミング言語であり、他の言語と比較すると自由度が高く、簡潔にプログラムを記述できる特徴がある。

2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)

- ①プログラミング言語Rubyの演算子を理解し、これらを使ったプログラムを書くことができる。
- ②条件分岐や繰り返しといった基本的な構文を理解し、これらを使ったプログラムを書くことができる。
- ③文字列操作について理解し、これを使ったプログラムを書くことができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	イントロダクション	授業の進行・開発環境についての説明 Teamsの使用法と留意点についての説明	事後：Ruby・VSCodeのインストール(2h)	
2	変数	変数と変数名の書き方について解説する。 変数を使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
3	データ型	データ型について解説する。 整数型や浮動小数点型、文字列型などの変数を使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
4	配列①	配列について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
5	配列②	配列を使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
6	ハッシュ	ハッシュについて解説する。 ハッシュを使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
7	算術演算子、代入演算子、比較演算子	算術演算子、代入演算子、比較演算子について解説する。 これらを使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
8	論理演算子、ビット演算子、演算子の優先順位と結合則	論理演算子、ビット演算子、演算子の優先順位と結合則について解説する。 これらを使ってプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
9	条件分岐	条件分岐について解説する。 if文、if～else文、if～elsif～else文を使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
10	中間テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：ここまでの学習内容を復習する(2h)	
11	繰り返し処理	繰り返し処理について解説する。 while文、until文、for文などを使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
12	繰り返し処理(専用メソッド)、ループの制御	繰り返し処理について解説する。 eachメソッド、timesメソッド、loopメソッドなどを使って、プログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
13	文字列の操作①	文字列操作について解説する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
14	文字列の操作②	基本的な文字列操作のプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
15	期末テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：ここまでの学習内容を復習する(2h) 事後：期末テストで解けなかった設問の調べ学習(1h)	
16	まとめ	テスト結果のフィードバックや補足すべき項目の解説をおこなう。		○

4. 教科書・参考文献

教科書	参考文献
独習Ruby	必要に応じて資料を配布する

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

C#

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

テストにおいて、間違いが多かった設問などは全体にフィードバックする。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小課題（第2週目以降の各週に実施）	40%
・中間テスト	20%
・期末テスト	20%

8. 備考
 グループワークや発表など適時おこなう。
 パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
 欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
Ruby (後期)		演習	40	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにプログラミング言語Rubyを授業する。	1	選択	SE2		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、①プログラミング言語Rubyを用いてオブジェクト指向プログラミングのスキルを身につけること、②Ruby特有の記法を理解しプログラムを作成すること③正規表現を理解することにある。この目的を達成するためにクラスの定義とインスタンスの生成、継承、カプセル化、ポリモーフィズム、Ruby特有の記法を中心に講義をおこなう。
Rubyはオブジェクト指向プログラミング言語であり、他の言語と比較すると自由度が高く、簡潔にプログラムを記述できる特徴がある。

2. 到達目標 (授業を通じて身につく知識・技能・態度)

- ①オブジェクト指向の三大要素 (継承・カプセル化・ポリモーフィズム) を用いたRubyプログラムを書くことができる。
- ②Ruby特有の記法をつかってプログラムを書くことができる。
- ③基本的な正規表現を書くことができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習 (内容/時間) 事後学習 (内容/時間)	AL
1	イントロダクション	授業の進行・開発環境についての説明 Teamsの使用法と留意点についての説明	事前：Ruby (前期) の復習 (1h)	
2	例外処理	例外処理について解説する。 例外処理を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
3	日付/時刻の操作	日付/時刻の操作について解説する。 日付/時刻の操作を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
4	正規表現	正規表現について解説する。 正規表現の演習およびプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
5	メソッド	メソッドについて解説する。 メソッドの定義と呼び出しを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
6	変数の有効範囲 (スコープ)	変数の有効範囲 (スコープ) について解説する。 変数の有効範囲 (スコープ) を意識したプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
7	引数のさまざまな記法、メソッド呼び出しと戻り値	引数のさまざまな記法、メソッド呼び出しと戻り値について解説する。 これらを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
8	ブロック付きメソッド	ブロック付きメソッドについて解説する。 ブロック付きメソッドを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
9	中間テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：ここまでの学習内容を復習する (2h)	
10	ファイル操作	ファイル操作について解説する。 ファイル操作を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
11	オブジェクト指向プログラミングの基本	オブジェクト指向プログラミングの基本について解説する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
12	クラスの定義	クラスの定義について解説する。 クラスの定義を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
13	継承	継承について解説する。 継承を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
14	カプセル化、ポリモーフィズム	カプセル化、ポリモーフィズムについて解説する。 カプセル化、ポリモーフィズムを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
15	モジュール	モジュールについて解説する。 モジュールを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
16	Objectクラス	Objectクラスについて解説する。 Objectクラスを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
17	演算子の再定義	演算子の再定義について解説する。 演算子の再定義を使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む (0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
18	演習	演習として、テキストファイルを扱うアプリを開発する。	事後：授業で作成したプログラムの変更・改良 (1h)	○
19	期末テスト	ここまで学習した内容について、テストを実施する。	事前：ここまでの学習内容を復習する (2h)	
20	まとめ	テスト結果のフィードバックや補足すべき項目の解説をおこなう。		○

4. 教科書・参考文献

教科書	独習Ruby	参考文献	必要に応じて資料を配布する
-----	--------	------	---------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

Ruby (前期)

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

テストにおいて、間違いが多かった設問などは全体にフィードバックする。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小テスト (第2週目以降の各週に実施)	40%
・中間テスト	20%
・期末テスト	20%

8. 備考

グループワークや発表など適時おこなう。
 パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。
 欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
ゲームプログラミング I		演習	60	9月～2月	1年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
鍛冶 暢宏	IT企業でソフトウェア開発に従事した実務経験をもとにゲームプログラミングを授業する。	2	選択	ITE1 ICTP1		

1. 科目の概要および目的

本授業の目的は、Unityを用いたWindowsゲームの開発において必要なスキルを身につけることにある。この目的を達成するためにゲームデザイン、ゲームオブジェクト、UI、効果音の鳴らし方、当たり判定、レベルデザインを中心に講義をおこなう。プログラミングにはプログラミング言語C#を使用する。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- Unityの基本的な操作方法を身につけることができる。
- 簡単な2D・3Dゲームを作成することができる。
- レベルデザインの考え方をプログラムに実装することができる。

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	イントロダクション、ゲームを作るのに必要なもの	授業の進行・開発環境についての説明 Teamsの使用法と留意点についての説明	事前：事前にシラバスを読む(0.5h) 事後：Unityのインストール(1h)	
2	シーンにオブジェクトを配置しよう、Unityの画面構成を知ろう	オブジェクトの配置、Unityの画面構成について解説をおこなう。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
3	占いルーレット①	演習として「占いルーレット」を制作する。 キーワード：プロジェクト、シーン、オブジェクト	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
4	占いルーレット②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
5	クラスを作ってみよう、Vector型を使ってみよう	クラス、Vector型について解説をおこなう。これらを使ったプログラムを作成する。	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
6	寸止めゲーム①	演習として「寸止めゲーム」を制作する。 キーワード：UI、効果音	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
7	寸止めゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
8	寸止めゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
9	上から降ってくる矢を避けるゲーム①	演習として「上から降ってくる矢を避けるゲーム」を制作する。 キーワード：当たり判定、Prefab	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
10	上から降ってくる矢を避けるゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
11	上から降ってくる矢を避けるゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
12	雲を渡って頂上のゴールを目指すゲーム①	演習として「雲を渡って頂上のゴールを目指すゲーム」を制作する。 キーワード：シーンの遷移、コライダ、カメラの追従	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
13	雲を渡って頂上のゴールを目指すゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
14	雲を渡って頂上のゴールを目指すゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
15	イガグリを飛ばすゲーム①	演習として「イガグリを飛ばすゲーム」を制作する。 キーワード：Terrain、エフェクト	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
16	イガグリを飛ばすゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
17	イガグリを飛ばすゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
18	落下してくるりんごをキャッチするゲーム①	演習として「落下してくるりんごをキャッチするゲーム」を制作する。 キーワード：UI、効果音、レベルデザイン	事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
19	落下してくるりんごをキャッチするゲーム②		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○
20	落下してくるりんごをキャッチするゲーム③		事前：事前に教科書を読む(0.5h) 事後：授業で作成したプログラムの変更・改良(1h)	○

4. 教科書・参考文献

教科書	Unityの教科書 Unity 2023完全対応版	参考文献	必要に応じて資料を配布する
-----	---------------------------	------	---------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

C#入門

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出された演習課題について、授業でいくつか実行しフィードバックを行う。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

・授業態度	20%
・小テスト（第2週目以降の各週に実施）	40%
・提出課題	40%

8. 備考

パソコンを使用するが、私的な利用はしないこと。 欠席した際の授業の遅れは各自必要に応じて自習し、わからないことは他の学生や教員に質問すること。
--

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
作品制作 I		演習	60	9月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
池田 洋介	IT企業で10年従事。専門学校講師としての実務経験14年。	2	必修	ICTP2		

1. 科目の概要および目的

将来の就職活動に向けての実践経験として、IT業界へアピールするための作品を制作します。これまでに学んだ知識を基にテーマ・コンセプトと合わせて技術力を表現できる作品を作ることで、ポートフォリオとしても使用できることを目的としています。

前期の設計モデルは自由とします。
後期は前期の経験を活かして、ウォーターフォールモデルとします。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- ・要件定義を意識した開発プロセスの理解。
- ・実践的なスキルの習得
- ・自己表現の場とした能動的行動力の向上。
- ・ポートフォリオ（自分の作品集）への追加。
- ・セルフマネジメント能力

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	作品制作を始めるまえに	この時間の意義を説明。作品の種類や参考例をあげてアイデアを提供する。	・事前に取り組みたい作品について考えてみる ・講義を参考に作品内容を固めていく	
2	作品の企画・検討	前回の講義を基に、制作に取り掛かる作品を考える。作品の企画書を作成。	・前回は参考に時間外でも検討しておく ・時間内に完成しない場合は、次回までに提出	
3	作品制作（仕様・設計1）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・企画書からの追記も検討しておく ・様々なものを参考に考えてみる	
4	作品制作（仕様・設計2）	作成した企画書を基に作品制作に取り掛かる。まずは企画書を基に設計書（仕様書）の作成。	・企画書からの追記も検討しておく ・様々なものを参考に考えてみる	
5	作品制作（開発1）	前回までの仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
6	作品制作（開発2）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
7	作品制作（開発3）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
8	作品制作（開発4）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
9	作品制作（開発5）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
10	作品制作（開発6）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
11	作品制作（進捗確認）	各自の進捗状況の確認。	・進捗確認が出来る資料を準備しておくこと	
12	作品制作（進捗調整）	前回の進捗からの軌道修正と開発の続きを行う。機能追加もここで調整する。	・後半の進捗についても確認しておくこと	
13	作品制作（開発7）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
14	作品制作（開発8）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
15	作品制作（開発9）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
16	作品制作（開発10）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
17	作品制作（開発11）	仕様・設計書を基に開発を行う。	・授業時間数を考慮して計画を立てて進めること	
18	作品制作（まとめ）	作品発表に向けてのまとめとブラッシュアップを行う。※発表できる品質を保つためにテストをしっかりと実施する	・時間内に終わらないテストなどは時間外も考慮	
19	作品制作（発表準備）	発表に向けての資料作成（フリップ資料、ドキュメント整備）	・パワーポイントは何度も見直しておくこと	
20	作品制作（発表）	各作品の発表会。（オンライン発表）	・設計資料と作品を提出できるように整える	

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
ヒューマンスキル		講義	72	4月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
輪嶋 儀博	専門学校での進路指導歴28年	4	必修	ICTP2		

1. 科目の概要および目的

ビジネスマンに求められる基礎的なスキルを身に付けることを目的とする。一般的には、プレゼンテーション力、ネゴシエーション力、コミュニケーション力などをヒューマンスキルと呼ぶが、当該授業においてはコミュニケーション力、プレゼンテーション力に加え、ビジネスマンの基礎力として求められるビジネス文書作成力、ビジネスマナー、法律知識、会計知識を身に付けることを指す。

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

- (1) ビジネス文書検定試験3級合格相当の知識と技能（7コマ）
- (2) ビジネスマナー検定3級合格相当の知識と技能（9コマ）
- (3) 硬筆書写検定試験3級レベルの書写技術（通年）
- (4) 日商簿記初級レベルの簿記会計知識（8コマ）
- (5) ビジネス実務法務検定試験3級レベルの法律知識（4コマ）
- (6) 卒業制作において必要となるであろうプレゼンテーション技法（8コマ）

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	ビジネス文書+硬筆	(1) 文書の基礎知識		
2	ビジネス文書+硬筆	(2) ビジネス文書の種類		
3	ビジネス文書+硬筆	(3) 社外文書・社内文書		
4	ビジネス文書+硬筆	(4) 一般の文書		
5	ビジネス文書+硬筆	(5) ことばの常識		
6	ビジネス文書+硬筆	(6) 文書関連知識		
7	ビジネス文書+硬筆	ビジネス文書の振り返り	小テスト1	
8	ビジネスマナー+硬筆	(1) 仕事に取り組む心構え		
9	ビジネスマナー+硬筆	(2) 指示の受け方・報告の仕方 職場の人間関係		●
10	ビジネスマナー+硬筆	(4) 基本動作 立つ姿勢・お辞儀・椅子の立ち座り		●
11	ビジネスマナー+硬筆	(5) 基本動作 歩き方・表情		●
12	ビジネスマナー+硬筆	(6) 言葉遣い 話の仕方・聞き方 敬語の基本		●
13	ビジネスマナー+硬筆	(7) 間違いやすい敬語	小テスト2	●
14	ビジネスマナー+硬筆	(8) 来客応対 接遇とは お客様を受け付ける		●
15	ビジネスマナー+硬筆	(9) 名刺の取り扱い方 取次の仕方・面会		●
16	ビジネスマナー+硬筆	(10) 案内の要領	ロールプレイング	●
17	簿記・会計知識+硬筆	財務諸表・簿記の基礎		
18	簿記・会計知識+硬筆	商品売買・現金預金		
19	簿記・会計知識+硬筆	手形・貸付金借入金		
20	簿記・会計知識+硬筆	その他の取引		

21	簿記・会計知識+硬筆	固定資産		
22	簿記・会計知識+硬筆	試算表	小テスト3	
23	法律知識+硬筆	労働関係の法律		
24	法律知識+硬筆	会社法 株式会社のしくみ		
25	法律知識+硬筆	民法の大原則		
26	法律知識+硬筆	刑法 犯罪の成立要件		
27	法律知識+硬筆	刑法 正当防衛と偶然防衛 緊急避難		
28	法律知識+硬筆	憲法 しくみと三権分立	小テスト4	
29	コミュニケーション+硬筆	正しい日本語		●
30	コミュニケーション+硬筆	話すときの心構え		●
31	コミュニケーション+硬筆	効果的な話し方		●
32	コミュニケーション+硬筆	効果的な表現力		●
33	コミュニケーション+硬筆	プレゼンテーション 資料作成(1)		●
34	コミュニケーション+硬筆	プレゼンテーション 資料作成(2)		●
35	コミュニケーション+硬筆	プレゼンテーション 発表(1)		●
36	コミュニケーション+硬筆	プレゼンテーション 発表(2)		●

4. 教科書・参考文献

教科書	ビジネス文書実務（早稲田教育出版）¥1,500+税 実践ビジネスマナー（ウイネット）¥1,200+税 新訂ペン習字教本（教育出版）¥457+税	参考文献	スッキリわかる日商簿記初級 日本一やさしい法律の教科書 コミュニケーション技法
-----	---	------	--

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

特になし

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

その都度4段階評価し返却される。C、D評価は再提出が必須となる。

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

(1)小テスト	評価割合	40%
(2)プレゼンテーション		30%
(3)授業に対する取り組み姿勢		30%

8. 備考

次年度は当該授業の知識をベースとし、検定試験レベルを1段階上げた授業内容となるため、しっかりと知識を習得することを望む。
--

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--

和歌山コンピュータビジネス専門学校 2024年度 シラバス

授業科目名		授業形態	時間数	開講時期	標準履修年次	科目ナンバー
WebプログラミングⅡ		演習	88	4月～2月	2年次	
担当者名	※実務経験	単位数	履修形態	クラス		
中谷 洸	大学で地球のエネルギー収支について研究機械系エンジニア3年の実務経験を活用した授業	2	必修	ICTP2 SE2 ITE2		

1. 科目の概要および目的

PHPは主要なWebサーバで動作するサーバーサイドスクリプトの実行環境です。この授業でPHPの基礎を学び、動的なWebページを作成できることを目的とする

2. 到達目標（授業を通じて身につく知識・技能・態度）

PHPの基礎を学び、動的なWebアプリを開発できる能力を身につける

3. 授業内容

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	PHPの準備	PHPとWebアプリ	教科書を読み履修内容を確認する	
2	PHPの準備	サーバーサイド技術におけるPHPの位置付け	PHPの準備について習ったことを復習する	
3	PHPの準備	PHP環境を設定するための手順	PHPの準備について習ったことを復習する	
4	PHPの基本	PHPの基本構文 変数 定数	PHPの基本について習ったことを復習する	
5	PHPの基本	データ型 配列	PHPの基本について習ったことを復習する	
6	PHPの基本	型の相互変換	PHPの基本について習ったことを復習する	
7	演算子	代数演算子 代入演算子	演算子について習ったことを復習する	
8	演算子	比較演算子 論理演算子	演算子について習ったことを復習する	
9	演算子	ビット演算子 その他の演算子	演算子について習ったことを復習する	
10	制御構文	条件分岐	制御構文について習ったことを復習する	
11	制御構文	繰り返し処理	制御構文について習ったことを復習する	
12	制御構文	ループの制御 制御命令のその他の話題	制御構文について習ったことを復習する	
13	組み込み関数	関数の基本 文字列関数	組み込み関数について習ったことを復習する	
14	組み込み関数	配列関数 正規表現関数	組み込み関数について習ったことを復習する	
15	組み込み関数	ファイルシステム その他の関数	組み込み関数について習ったことを復習する	
16	ユーザ定義関数	ユーザ定義関数とは 変数の有効範囲	ユーザ定義関数について習ったことを復習する	
17	ユーザ定義関数	引数のさまざまな記法 関数呼び出しと戻り値	ユーザ定義関数について習ったことを復習する	
18	ユーザ定義関数	ジェネレーター	ユーザ定義関数について習ったことを復習する	
19	標準クラスライブラリ	オブジェクト指向プログラミングの基本 Date Timeクラス	標準クラスライブラリについて習ったことを復習する	
20	標準クラスライブラリ	DirectoryIteratorクラス 外部ライブラリの活用	標準クラスライブラリについて習ったことを復習する	

2 1	標準クラスライブラリ	HTTPクライアントのGuzzle	標準クラスライブラリについて習ったことを復習する
2 2	リクエスト情報	リクエスト情報 ポストデータ	リクエスト情報について習ったことを復習する
2 3	リクエスト情報	クエリ情報 ヘッダー情報	リクエスト情報について習ったことを復習する
2 4	リクエスト情報	サーバ環境変数 クッキー情報	リクエスト情報について習ったことを復習する
2 5	データベース連携	データベースの種類 データベース操作の基本	データベース連携について習ったことを復習する
2 6	データベース連携	データベース抽象化レイヤー	データベース連携について習ったことを復習する
2 7	データベース連携	データベースの接続 SQLクエリの発行	データベース連携について習ったことを復習する
2 8	オブジェクト指向構文	クラスの定義 カプセル化	オブジェクト指向構文について習ったことを復習する
2 9	オブジェクト指向構文	継承 ポリモーフィズム	オブジェクト指向構文について習ったことを復習する
3 0	オブジェクト指向構文	トレイト オブジェクトの操作	オブジェクト指向構文について習ったことを復習する
3 1	高度なプログラミング	属性	高度なプログラミングについて習ったことを復習する
3 2	高度なプログラミング	セキュリティ対策	高度なプログラミングについて習ったことを復習する
3 3	高度なプログラミング	ドキュメンテーションコメント	高度なプログラミングについて習ったことを復習する
3 4	高度なプログラミング	VSCoDe+PHP Debug拡張によるデバッグ①	高度なプログラミングについて習ったことを復習する
3 5	高度なプログラミング	VSCoDe+PHP Debug拡張によるデバッグ②	高度なプログラミングについて習ったことを復習する
3 6	高度なプログラミング	VSCoDe+PHP Debug拡張によるデバッグ③	高度なプログラミングについて習ったことを復習する

4. 教科書・参考文献

教科書	独習PHP 第4版	参考文献	必要に応じた資料配布
-----	-----------	------	------------

5. 事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能等

予習：教科書を読み履修内容を確認しておく
復習：授業終了後、各自内容を復習して次回の授業までに身に着けたことを活かせるように理解しておくこと

6. 課題やレポート等に対するフィードバックの方法

提出された課題等について論評・添削しますので課題等忘れずに提出してください

7. 成績評価方法・評価割合・評価基準

課題	40%
出席率	30%
授業態度（主体性、授業の取り組み）	30%

8. 備考

--

9. ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

DP1	DP2	DP3

10. オフィスアワー

--